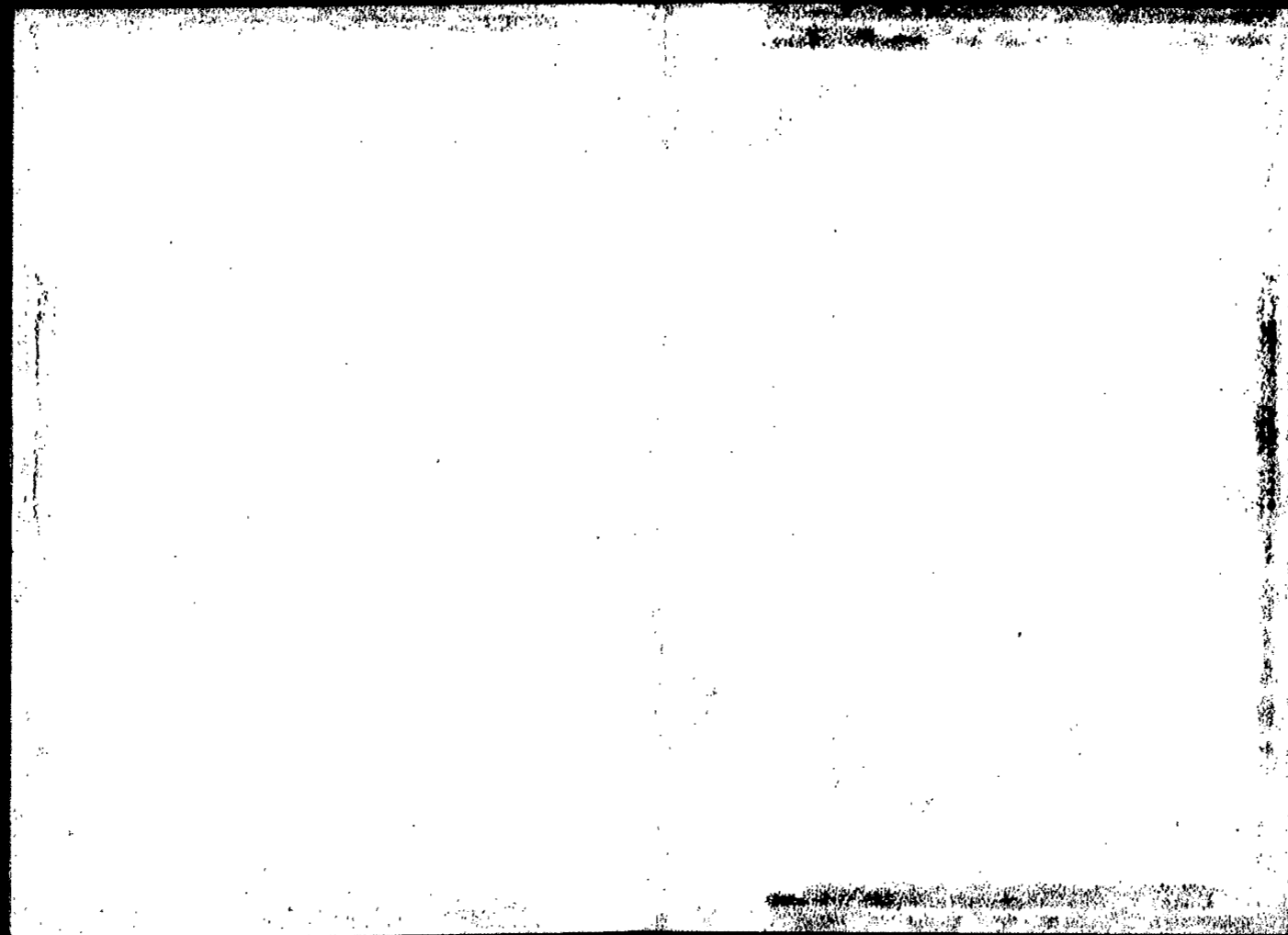




0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 2

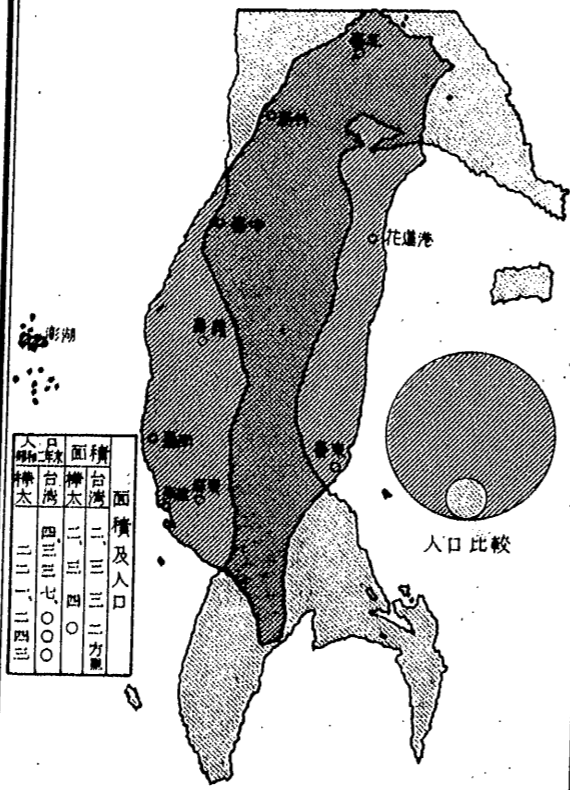




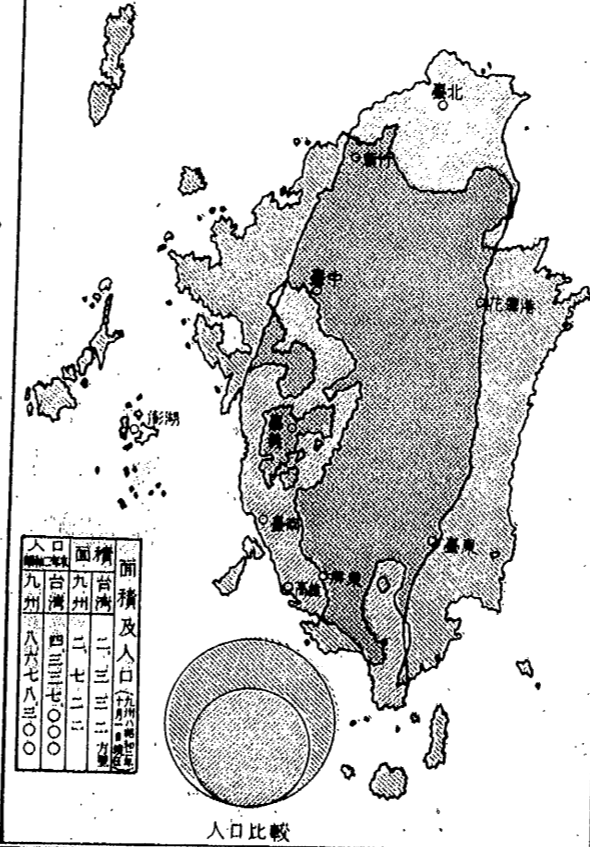
臺灣現勢要覽

352
30233
16

II 臺灣及樺太面積並人口比較

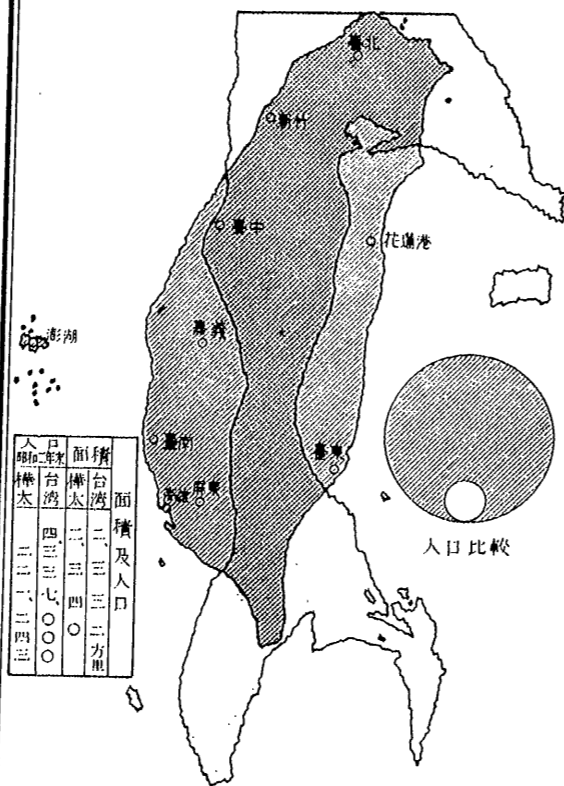


I 臺灣及九州面積並人口比較

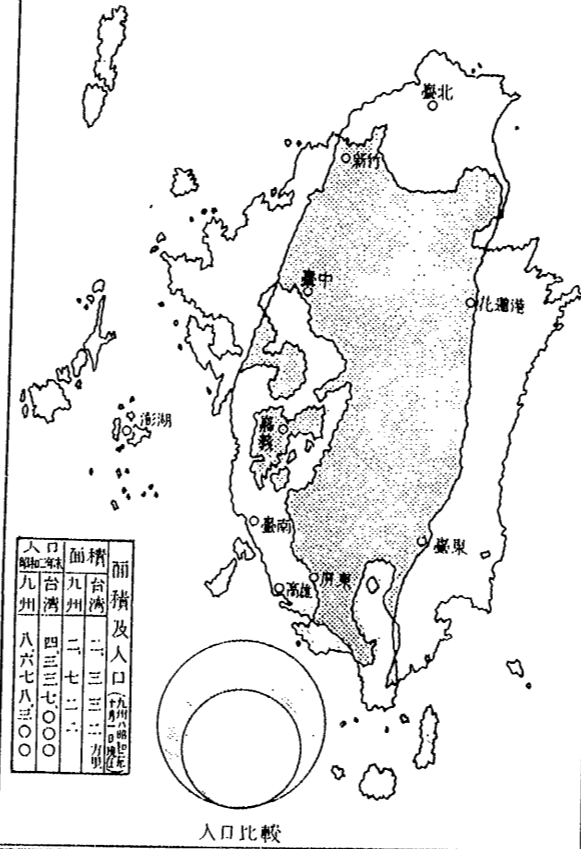


露光量違いにより重複撮影

II 臺灣及樺太面積並人口比較



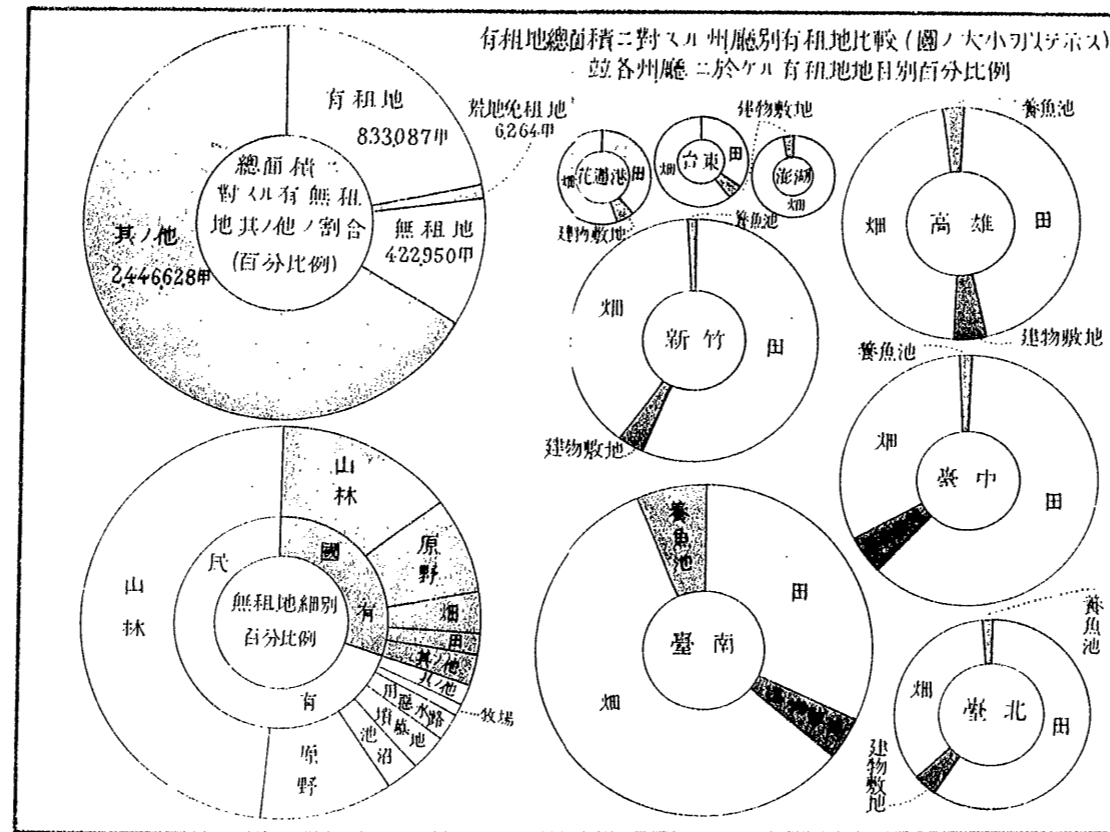
I 臺灣及九州面積並人口比較



露光量違いにより重複撮影



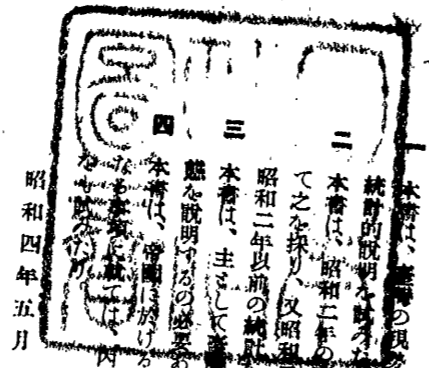
III 土地 (昭和三年一月一日現在)



露光量違いにより重複撮影



凡例



本書は、臺灣の現勢を知るの便に資せんが爲め、主要なる事項に就て、その統計的説明を附するものなり。

本書は、昭和二年の事實を基礎としたるも、その最近の統計あるものは勢りて之を採り、又昭和二年の事實不明のもの若は特に必要と認めたるものは、昭和二年以前の統計をも採りたり。

本書は、主として臺灣の現勢を知るを目的とするも、特にその變遷進歩の狀態を説明するの必要ある事項に就ては、累年の統計をも擧げたり。

本書は、帝國に於ける臺灣の地位を説明するの便に供せんが爲め、その必要ありし處を以て、内地府縣、北海道、朝鮮、樺太、關東州等との比較對照

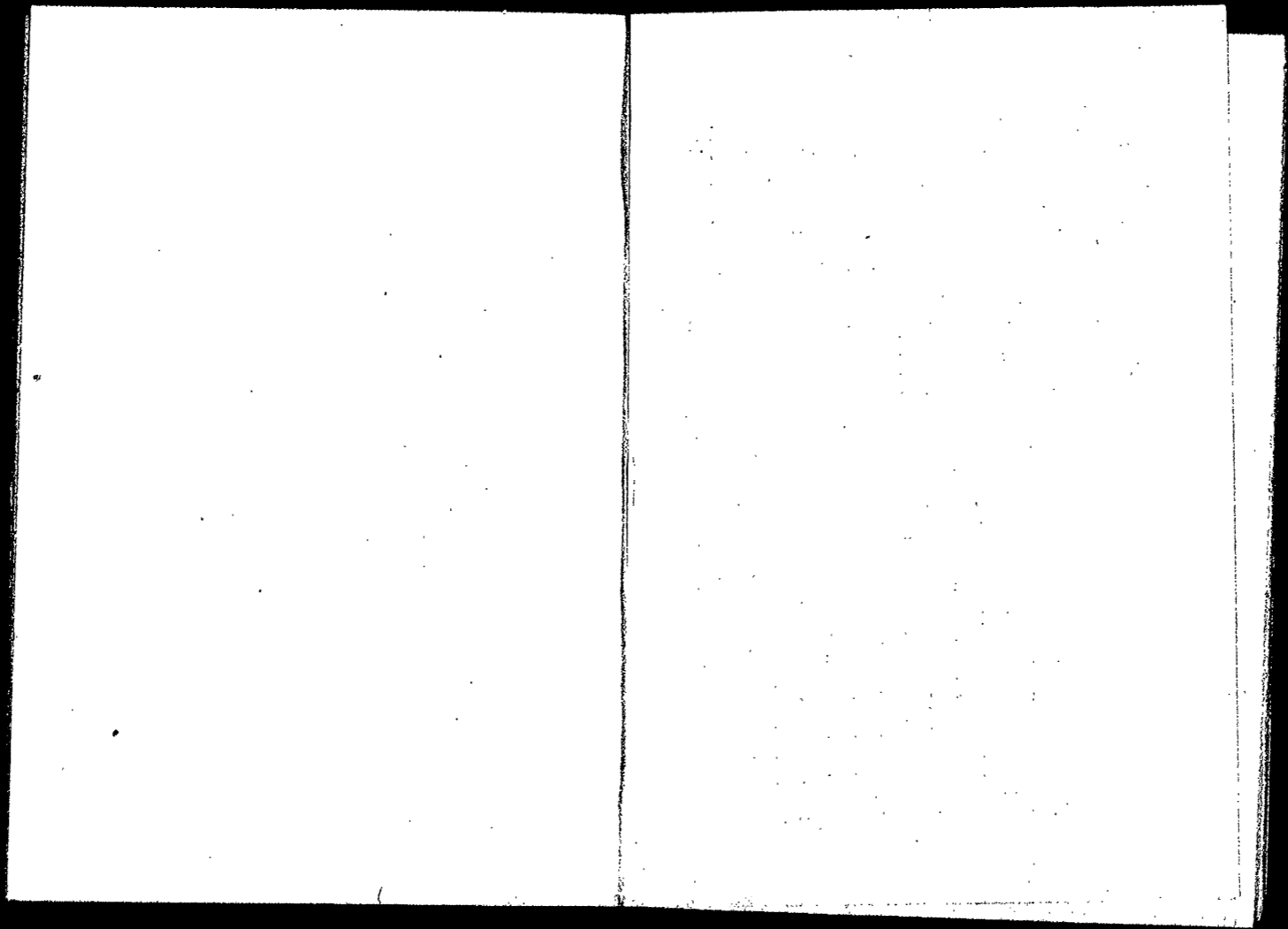
昭和四年五月

臺灣總督府









臺灣現勢要覽

一 位置

臺灣は帝國の最南端に位し、臺灣本島、澎湖列島及其の他の附屬島嶼より成る。今之を經緯度に釋するに、東經百十九度十八分より百二十二度六分、北緯二十一度四十五分より二十五度三十八分に至る。北は海上六百二十四哩にして九州の南端鹿兒島に達し、西は臺灣海峡を隔て、近く支那大陸に相接し、東は太平洋を隔て、遠く米大陸に相對し、南はオシシ海峡を隔て、近く比律賓群島に相隣す。

一 經度及緯度

島嶼名	經度(東經)	緯度(北緯)
臺灣本島	極東 臺北市橋花嶼東端 120°00'	極南 臺南州北港郡口湖庄新港西端 10°01'
	極西 高雄州恒春郡七星岩南端 120°01'	極北 臺北市基隆市彭佳嶼北端 25°00'
	極東 澎湖廳湖西庄查母嶼東端 120°00'	極西 澎湖廳湖西庄查母嶼西端 119°58'
澎湖島	極東 臺安庄花嶼南端 120°00'	極南 同 臺安庄大嶼南端 23°00'
	極西 同 白沙庄斗嶼北端 119°58'	極北 同 同 23°00'



二 面積

露海の面積は二千三百三十二方里にして、帝國の總面積四萬三千七百方里中その五分三厘を占め、九州よりは稍や小さく、樺太と伯仲し、朝鮮に比すれば約その六分の一に當る。尙ほ之を列國の面積に比すれば、瑞西(二千六百七十八方里)とサルバドル(二千二百十三方里)との中間に位す。

總數	面積		百分比
	方里	方里	
露海	2332	(2332)	100
朝鮮	1212	(3100)	52
樺太	220	(220)	9
北海道	575	(885)	25
内地府縣	1010	(935)	43

本表の外租借地として關東州(州内、鐵道附屬地)の面積二百四十二方里(三千七百十八方里)及南洋委任統治區域の面積百三十九方里(二千四百九十九方里)あり。  
本表は帝國統計年鑑に依る。

### 三山嶽

臺灣は帝國第一の高山新高山を始めし、海拔一萬尺以上のもの四十八座、九千尺級のもの十七座、八千尺級のもの二十四座、七千尺級のもの二十六座を有す。故に七千尺以上の高山の總数は百十五座の多きに達し、所謂「高山國」の名に背かずして熱帯、暖帯、溫帯、寒帯等各種の林相を有す。

帝國の全領土を通して一萬尺以上の高山は總數六十一座を算し、就中臺灣四十八座を占め、内地は僅かに十三座を有し、北海道、朝鮮、樺太は共に之を缺く。即ち新高山は一萬三千三十五尺を以て第一位を占め、富士山は漸く第六位に在り、内地第二の高山北嶽は僅かに四十一位を占むるに過ぎず。

山名	海面よりの高さ	順位
新高山	13,350尺	1
次高山	12,710尺	2
秀姑巒山	12,580尺	3
マボラス山	12,520尺	4
南湖大山	12,380尺	5
富士山(内地)	12,370尺	6
中央尖山	11,700尺	7
關山	11,700尺	8

大水窟山	11,010尺	9
奇萊主山北峰	11,000尺	10
東郡大山	11,000尺	11
大霸尖山	11,000尺	12
雲梯主峰	11,000尺	13
奇萊主山	11,000尺	14
合歡山	11,000尺	15
北合歡山	11,000尺	16
東合歡山	11,000尺	17
南合歡山	11,000尺	18
桃山	11,000尺	19
玉山	11,000尺	20
シカン	11,000尺	21
畢祿山	11,000尺	22
丹大	11,000尺	23
白姑大山	11,000尺	24
奇萊主山南峰	11,000尺	25
南雙頭山	11,000尺	26

能高山南峰	11,000	(第1,000)	大
卑南主	10,900	(第1,000)	大
千車萬	10,800	(第1,000)	大
カシバナ	10,800	(第1,000)	大
郡大	10,800	(第1,000)	大
タロヨ	10,700	(第1,000)	大
卓大	10,700	(第1,000)	大
小關	10,700	(第1,000)	大
能高	10,700	(第1,000)	大
鼻風	10,700	(第1,000)	大
大武	10,700	(第1,000)	大
尖	10,700	(第1,000)	大
北トツノ	10,700	(第1,000)	大
間ヶ嶽	10,700	(第1,000)	大
給ヶ嶽	10,700	(第1,000)	大
檜ヶ嶽	10,700	(第1,000)	大
ハイノトナ	10,700	(第1,000)	大
イボイサ	10,700	(第1,000)	大

白石	10,700	(第1,000)	大
ツツノ	10,700	(第1,000)	大
赤石	10,700	(第1,000)	大
奥高岳	10,700	(第1,000)	大
東俣	10,700	(第1,000)	大
種高岳	10,700	(第1,000)	大
安東郡	10,700	(第1,000)	大
樽大	10,700	(第1,000)	大
御嶽	10,700	(第1,000)	大
關門	10,700	(第1,000)	大
大石	10,700	(第1,000)	大
白根	10,700	(第1,000)	大
小響	10,700	(第1,000)	大
仙丈ヶ嶽	10,700	(第1,000)	大
南嶽	10,700	(第1,000)	大

内地の分は第四十五回國勢一表に依る。



四河川

臺灣は幅員狭く、その最も廣き部分と雖、僅かに四十里内外に過ぎず、且つ高峯南北に貫通するを以て、河川の發源孰れも近く、舟楫の便は多く窺むべからず。流域二十里以上のもの僅かに十を算し、最長の河川たる濁水溪にして漸く四十二里に過ぎず。

濁水溪	四二里
曾文溪	三九七
大甲溪	三九七
烏水溪	三七一
八獎溪	三〇〇
秀南溪	二八六
卑南溪	二二二
大安溪	二一五
大甲溪	二〇五

本表は流域二十里以上のもののみを掲ぐ。

### 五 土地の利用

臺灣の總面積は三百六十二萬七千町歩（三百七十萬八千甲）にして、内耕地八十萬町歩（八十二萬甲）、林野二百五十五萬町歩（二百六十一萬甲）、其の他二十七萬町歩（二十七萬甲）なり。

今之を内地其他と比較するに、總面積に對する耕地の割合最も大なるは、關東州の五割二分にして、臺灣は二割二分を以て之に亞き、樺太の七厘最も小なり。林野に於ては樺太の八割九分最も大にして、朝鮮の七割四分、北海道、臺灣の七割之に亞き、關東州の二割五分最も小なり。耕地及林野以外の土地の割合最も大なるは内地府縣の二割六分にして、朝鮮の六分最も小なり。

實數	耕地			百分比		
	耕地	林野	其他	耕地	林野	其他
臺灣	820,000	2,550,000	270,000	23.2	70.5	6.3
朝鮮	1,700,000	1,300,000	100,000	56.9	40.0	3.1
關東州	1,900,000	1,100,000	100,000	63.3	33.3	3.4
北海道	1,400,000	900,000	100,000	61.0	37.0	2.0
内地府縣	1,600,000	1,200,000	100,000	57.1	42.9	0.0
耕地は昭和二年末現在なり。	1,500,000	1,200,000	100,000	55.6	44.4	0.0

林野の臺灣、樺太、關東州州内、鐵道附屬地、北海道及内地府縣は昭和二年末現在、朝鮮は昭和三年五月末現在なり。

朝鮮、樺太、關東州は同體統計書に依る。

北海道、内地府縣は農林省統計表に依る。

六氣 温

瀋陽は北回線に跨り、半は熱帯圏に位するか故に、内地に比すれば夏季長く、冬季短きも、その最高気温は致して内地より高しと謂ふにあらす。而も冬季は頗る暖かにして、高山ならざれば降雪なく、北部の平地に於ては偶々霜を見る事なしとせざるも極て稀なり。今内地其の他と比較するに、累年平均気温は我瀋陽最も高きも、最高極数の気温に至りては内地其の他の部分に却つて高き處あり。即ち瀋陽の三十九度(華氏百二度二分)は新瀋陽の三十九度一分(華氏百二度四分)より一分低く、又瀋陽の三十六度九分(華氏九十八度四分)は京城の三十七度五分(華氏九十九度五分)より一分低く、瀋陽の三十七度二分(華氏九十九度二分)は大隈の三十七度六分(華氏九十九度七分)より一分低く、瀋陽の三十七度二分(華氏九十九度二分)は釜山、旭川と同じし、及瀋陽の三十三度五分(華氏九十二度三分)は大泊、兩館を除けば他の何れの地方よりも低し。

地名	昭和二年平均		最高の極	最低の極
	攝氏	華氏		
瀋陽	10.2	50.4	21.5	-14.3
大泊	10.1	50.2	21.4	-14.2
兩館	10.0	50.0	21.3	-14.1
釜山	10.0	50.0	21.3	-14.1
京城	9.9	49.8	21.2	-14.0
天津	9.8	49.6	21.1	-13.9
大連	9.7	49.5	21.0	-13.8
遼陽	9.6	49.4	20.9	-13.7
鞍山	9.5	49.3	20.8	-13.6
抚顺	9.4	49.2	20.7	-13.5
本溪	9.3	49.1	20.6	-13.4
通遼	9.2	49.0	20.5	-13.3
海城	9.1	48.9	20.4	-13.2
鞍山	9.0	48.8	20.3	-13.1
本溪	8.9	48.7	20.2	-13.0
抚顺	8.8	48.6	20.1	-12.9
鞍山	8.7	48.5	20.0	-12.8
本溪	8.6	48.4	19.9	-12.7
抚顺	8.5	48.3	19.8	-12.6
鞍山	8.4	48.2	19.7	-12.5
本溪	8.3	48.1	19.6	-12.4
抚顺	8.2	48.0	19.5	-12.3
鞍山	8.1	47.9	19.4	-12.2
本溪	8.0	47.8	19.3	-12.1
抚顺	7.9	47.7	19.2	-12.0
鞍山	7.8	47.6	19.1	-11.9
本溪	7.7	47.5	19.0	-11.8
抚顺	7.6	47.4	18.9	-11.7
鞍山	7.5	47.3	18.8	-11.6
本溪	7.4	47.2	18.7	-11.5
抚顺	7.3	47.1	18.6	-11.4
鞍山	7.2	47.0	18.5	-11.3
本溪	7.1	46.9	18.4	-11.2
抚顺	7.0	46.8	18.3	-11.1
鞍山	6.9	46.7	18.2	-11.0
本溪	6.8	46.6	18.1	-10.9
抚顺	6.7	46.5	18.0	-10.8
鞍山	6.6	46.4	17.9	-10.7
本溪	6.5	46.3	17.8	-10.6
抚顺	6.4	46.2	17.7	-10.5
鞍山	6.3	46.1	17.6	-10.4
本溪	6.2	46.0	17.5	-10.3
抚顺	6.1	45.9	17.4	-10.2
鞍山	6.0	45.8	17.3	-10.1
本溪	5.9	45.7	17.2	-10.0
抚顺	5.8	45.6	17.1	-9.9
鞍山	5.7	45.5	17.0	-9.8
本溪	5.6	45.4	16.9	-9.7
抚顺	5.5	45.3	16.8	-9.6
鞍山	5.4	45.2	16.7	-9.5
本溪	5.3	45.1	16.6	-9.4
抚顺	5.2	45.0	16.5	-9.3
鞍山	5.1	44.9	16.4	-9.2
本溪	5.0	44.8	16.3	-9.1
抚顺	4.9	44.7	16.2	-9.0
鞍山	4.8	44.6	16.1	-8.9
本溪	4.7	44.5	16.0	-8.8
抚顺	4.6	44.4	15.9	-8.7
鞍山	4.5	44.3	15.8	-8.6
本溪	4.4	44.2	15.7	-8.5
抚顺	4.3	44.1	15.6	-8.4
鞍山	4.2	44.0	15.5	-8.3
本溪	4.1	43.9	15.4	-8.2
抚顺	4.0	43.8	15.3	-8.1
鞍山	3.9	43.7	15.2	-8.0
本溪	3.8	43.6	15.1	-7.9
抚顺	3.7	43.5	15.0	-7.8
鞍山	3.6	43.4	14.9	-7.7
本溪	3.5	43.3	14.8	-7.6
抚顺	3.4	43.2	14.7	-7.5
鞍山	3.3	43.1	14.6	-7.4
本溪	3.2	43.0	14.5	-7.3
抚顺	3.1	42.9	14.4	-7.2
鞍山	3.0	42.8	14.3	-7.1
本溪	2.9	42.7	14.2	-7.0
抚顺	2.8	42.6	14.1	-6.9
鞍山	2.7	42.5	14.0	-6.8
本溪	2.6	42.4	13.9	-6.7
抚顺	2.5	42.3	13.8	-6.6
鞍山	2.4	42.2	13.7	-6.5
本溪	2.3	42.1	13.6	-6.4
抚顺	2.2	42.0	13.5	-6.3
鞍山	2.1	41.9	13.4	-6.2
本溪	2.0	41.8	13.3	-6.1
抚顺	1.9	41.7	13.2	-6.0
鞍山	1.8	41.6	13.1	-5.9
本溪	1.7	41.5	13.0	-5.8
抚顺	1.6	41.4	12.9	-5.7
鞍山	1.5	41.3	12.8	-5.6
本溪	1.4	41.2	12.7	-5.5
抚顺	1.3	41.1	12.6	-5.4
鞍山	1.2	41.0	12.5	-5.3
本溪	1.1	40.9	12.4	-5.2
抚顺	1.0	40.8	12.3	-5.1
鞍山	0.9	40.7	12.2	-5.0
本溪	0.8	40.6	12.1	-4.9
抚顺	0.7	40.5	12.0	-4.8
鞍山	0.6	40.4	11.9	-4.7
本溪	0.5	40.3	11.8	-4.6
抚顺	0.4	40.2	11.7	-4.5
鞍山	0.3	40.1	11.6	-4.4
本溪	0.2	40.0	11.5	-4.3
抚顺	0.1	39.9	11.4	-4.2
鞍山	0.0	39.8	11.3	-4.1
本溪	-0.1	39.7	11.2	-4.0
抚顺	-0.2	39.6	11.1	-3.9
鞍山	-0.3	39.5	11.0	-3.8
本溪	-0.4	39.4	10.9	-3.7
抚顺	-0.5	39.3	10.8	-3.6
鞍山	-0.6	39.2	10.7	-3.5
本溪	-0.7	39.1	10.6	-3.4
抚顺	-0.8	39.0	10.5	-3.3
鞍山	-0.9	38.9	10.4	-3.2
本溪	-1.0	38.8	10.3	-3.1
抚顺	-1.1	38.7	10.2	-3.0
鞍山	-1.2	38.6	10.1	-2.9
本溪	-1.3	38.5	10.0	-2.8
抚顺	-1.4	38.4	9.9	-2.7
鞍山	-1.5	38.3	9.8	-2.6
本溪	-1.6	38.2	9.7	-2.5
抚顺	-1.7	38.1	9.6	-2.4
鞍山	-1.8	38.0	9.5	-2.3
本溪	-1.9	37.9	9.4	-2.2
抚顺	-2.0	37.8	9.3	-2.1
鞍山	-2.1	37.7	9.2	-2.0
本溪	-2.2	37.6	9.1	-1.9
抚顺	-2.3	37.5	9.0	-1.8
鞍山	-2.4	37.4	8.9	-1.7
本溪	-2.5	37.3	8.8	-1.6
抚顺	-2.6	37.2	8.7	-1.5
鞍山	-2.7	37.1	8.6	-1.4
本溪	-2.8	37.0	8.5	-1.3
抚顺	-2.9	36.9	8.4	-1.2
鞍山	-3.0	36.8	8.3	-1.1
本溪	-3.1	36.7	8.2	-1.0
抚顺	-3.2	36.6	8.1	-0.9
鞍山	-3.3	36.5	8.0	-0.8
本溪	-3.4	36.4	7.9	-0.7
抚顺	-3.5	36.3	7.8	-0.6
鞍山	-3.6	36.2	7.7	-0.5
本溪	-3.7	36.1	7.6	-0.4
抚顺	-3.8	36.0	7.5	-0.3
鞍山	-3.9	35.9	7.4	-0.2
本溪	-4.0	35.8	7.3	-0.1
抚顺	-4.1	35.7	7.2	0.0
鞍山	-4.2	35.6	7.1	0.1
本溪	-4.3	35.5	7.0	0.2
抚顺	-4.4	35.4	6.9	0.3
鞍山	-4.5	35.3	6.8	0.4
本溪	-4.6	35.2	6.7	0.5
抚顺	-4.7	35.1	6.6	0.6
鞍山	-4.8	35.0	6.5	0.7
本溪	-4.9	34.9	6.4	0.8
抚顺	-5.0	34.8	6.3	0.9
鞍山	-5.1	34.7	6.2	1.0
本溪	-5.2	34.6	6.1	1.1
抚顺	-5.3	34.5	6.0	1.2
鞍山	-5.4	34.4	5.9	1.3
本溪	-5.5	34.3	5.8	1.4
抚顺	-5.6	34.2	5.7	1.5
鞍山	-5.7	34.1	5.6	1.6
本溪	-5.8	34.0	5.5	1.7
抚顺	-5.9	33.9	5.4	1.8
鞍山	-6.0	33.8	5.3	1.9
本溪	-6.1	33.7	5.2	2.0
抚顺	-6.2	33.6	5.1	2.1
鞍山	-6.3	33.5	5.0	2.2
本溪	-6.4	33.4	4.9	2.3
抚顺	-6.5	33.3	4.8	2.4
鞍山	-6.6	33.2	4.7	2.5
本溪	-6.7	33.1	4.6	2.6
抚顺	-6.8	33.0	4.5	2.7
鞍山	-6.9	32.9	4.4	2.8
本溪	-7.0	32.8	4.3	2.9
抚顺	-7.1	32.7	4.2	3.0
鞍山	-7.2	32.6	4.1	3.1
本溪	-7.3	32.5	4.0	3.2
抚顺	-7.4	32.4	3.9	3.3
鞍山	-7.5	32.3	3.8	3.4
本溪	-7.6	32.2	3.7	3.5
抚顺	-7.7	32.1	3.6	3.6
鞍山	-7.8	32.0	3.5	3.7
本溪	-7.9	31.9	3.4	3.8
抚顺	-8.0	31.8	3.3	3.9
鞍山	-8.1	31.7	3.2	4.0
本溪	-8.2	31.6	3.1	4.1
抚顺	-8.3	31.5	3.0	4.2
鞍山	-8.4	31.4	2.9	4.3
本溪	-8.5	31.3	2.8	4.4
抚顺	-8.6	31.2	2.7	4.5
鞍山	-8.7	31.1	2.6	4.6
本溪	-8.8	31.0	2.5	4.7
抚顺	-8.9	30.9	2.4	4.8
鞍山	-9.0	30.8	2.3	4.9
本溪	-9.1	30.7	2.2	5.0
抚顺	-9.2	30.6	2.1	5.1
鞍山	-9.3	30.5	2.0	5.2
本溪	-9.4	30.4	1.9	5.3
抚顺	-9.5	30.3	1.8	5.4
鞍山	-9.6	30.2	1.7	5.5
本溪	-9.7	30.1	1.6	5.6
抚顺	-9.8	30.0	1.5	5.7
鞍山	-9.9	29.9	1.4	5.8
本溪	-10.0	29.8	1.3	5.9

地名	昭和二年平均		最高の極	最低の極
	攝氏	華氏		
瀋陽	10.2	50.4	21.5	-14.3
大泊	10.1	50.2	21.4	-14.2
兩館	10.0	50.0	21.3	-14.1
釜山	10.0	50.0	21.3	-14.1
京城	9.9	49.8	21.2	-14.0
天津	9.8	49.6	21.1	-13.9
大連	9.7	49.5	21.0	-13.8
遼陽	9.6	49.4	20.9	-13.7
鞍山	9.5	49.3	20.8	-13.6
抚顺	9.4	49.2	20.7	-13.5
本溪	9.3	49.1	20.6	-13.4
通遼	9.2	49.0	20.5	-13.3
海城	9.1	48.9	20.4	-13.2
鞍山	9.0	48.8	20.3	-13.1
本溪	8.9	48.7	20.2	-13.0
抚顺	8.8	48.6	20.1	-12.9
鞍山	8.7	48.5	20.0	-12.8
本溪	8.6	48.4	19.9	-12.7
抚顺	8.5	48.3	19.8	-12.6

大	一五三	一五〇	一五〇	一五七	一八二	一七三	一七一
東	一四三	一五九	一五〇	一五九	一八一	一七三	一七一
新	一四三	一五九	一五〇	一五九	一八一	一七三	一七一
青	一四三	一五九	一五〇	一五九	一八一	一七三	一七一

(一)は岩手下を示す。

七 雨 量

臺灣は南北に依り其の降雨期を異にす。即ち北部は十月より翌年三月迄の冬季六箇月、南部は五月より九月に至る夏期五箇月を雨期とす。北部は基隆附近最も降雨量多く、基隆に近き暖地は一年五千耗を以て第一位を占め、且つ世界有数の降雨地として知らる。南部に於ては潮州郡潘地ケツルスの五千三百耗最多量を示し、降雨量の最も少きは澎湖島にして一年の總量九百六十耗なり。更に之を内地其他と比較するに、臺灣は全島を通じて一般に他の地方より降雨量多し。

恒	三九八	三九八	三九八	三九八	三九八	三九八	三九八
潘地ケツルス	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇
東	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
南	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
湖	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
山	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
中	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
北	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇

昭和二年 總雨量  
 累年平均雨量  
 昭和二年 最多日量

青新

森湯

1297  
1299

1210  
1200

老支

717  
713

朝 釜 京 樺 大 關 北 族 旭 札 内 地 府  
 隆 暖 山 城 泊 順 道 館 幌 川 縣 初 崎 阪 京

587  
586  
1211  
1210  
1209  
1208  
1207  
1206  
1205  
1204  
1203  
1202  
1201  
1200  
1199  
1198  
1197  
1196  
1195  
1194  
1193  
1192  
1191  
1190  
1189  
1188  
1187  
1186  
1185  
1184  
1183  
1182  
1181  
1180  
1179  
1178  
1177  
1176  
1175  
1174  
1173  
1172  
1171  
1170  
1169  
1168  
1167  
1166  
1165  
1164  
1163  
1162  
1161  
1160  
1159  
1158  
1157  
1156  
1155  
1154  
1153  
1152  
1151  
1150  
1149  
1148  
1147  
1146  
1145  
1144  
1143  
1142  
1141  
1140  
1139  
1138  
1137  
1136  
1135  
1134  
1133  
1132  
1131  
1130  
1129  
1128  
1127  
1126  
1125  
1124  
1123  
1122  
1121  
1120  
1119  
1118  
1117  
1116  
1115  
1114  
1113  
1112  
1111  
1110  
1109  
1108  
1107  
1106  
1105  
1104  
1103  
1102  
1101  
1100  
1099  
1098  
1097  
1096  
1095  
1094  
1093  
1092  
1091  
1090  
1089  
1088  
1087  
1086  
1085  
1084  
1083  
1082  
1081  
1080  
1079  
1078  
1077  
1076  
1075  
1074  
1073  
1072  
1071  
1070  
1069  
1068  
1067  
1066  
1065  
1064  
1063  
1062  
1061  
1060  
1059  
1058  
1057  
1056  
1055  
1054  
1053  
1052  
1051  
1050  
1049  
1048  
1047  
1046  
1045  
1044  
1043  
1042  
1041  
1040  
1039  
1038  
1037  
1036  
1035  
1034  
1033  
1032  
1031  
1030  
1029  
1028  
1027  
1026  
1025  
1024  
1023  
1022  
1021  
1020  
1019  
1018  
1017  
1016  
1015  
1014  
1013  
1012  
1011  
1010  
1009  
1008  
1007  
1006  
1005  
1004  
1003  
1002  
1001  
1000

587  
586  
1211  
1210  
1209  
1208  
1207  
1206  
1205  
1204  
1203  
1202  
1201  
1200  
1199  
1198  
1197  
1196  
1195  
1194  
1193  
1192  
1191  
1190  
1189  
1188  
1187  
1186  
1185  
1184  
1183  
1182  
1181  
1180  
1179  
1178  
1177  
1176  
1175  
1174  
1173  
1172  
1171  
1170  
1169  
1168  
1167  
1166  
1165  
1164  
1163  
1162  
1161  
1160  
1159  
1158  
1157  
1156  
1155  
1154  
1153  
1152  
1151  
1150  
1149  
1148  
1147  
1146  
1145  
1144  
1143  
1142  
1141  
1140  
1139  
1138  
1137  
1136  
1135  
1134  
1133  
1132  
1131  
1130  
1129  
1128  
1127  
1126  
1125  
1124  
1123  
1122  
1121  
1120  
1119  
1118  
1117  
1116  
1115  
1114  
1113  
1112  
1111  
1110  
1109  
1108  
1107  
1106  
1105  
1104  
1103  
1102  
1101  
1100  
1099  
1098  
1097  
1096  
1095  
1094  
1093  
1092  
1091  
1090  
1089  
1088  
1087  
1086  
1085  
1084  
1083  
1082  
1081  
1080  
1079  
1078  
1077  
1076  
1075  
1074  
1073  
1072  
1071  
1070  
1069  
1068  
1067  
1066  
1065  
1064  
1063  
1062  
1061  
1060  
1059  
1058  
1057  
1056  
1055  
1054  
1053  
1052  
1051  
1050  
1049  
1048  
1047  
1046  
1045  
1044  
1043  
1042  
1041  
1040  
1039  
1038  
1037  
1036  
1035  
1034  
1033  
1032  
1031  
1030  
1029  
1028  
1027  
1026  
1025  
1024  
1023  
1022  
1021  
1020  
1019  
1018  
1017  
1016  
1015  
1014  
1013  
1012  
1011  
1010  
1009  
1008  
1007  
1006  
1005  
1004  
1003  
1002  
1001  
1000

587  
586  
1211  
1210  
1209  
1208  
1207  
1206  
1205  
1204  
1203  
1202  
1201  
1200  
1199  
1198  
1197  
1196  
1195  
1194  
1193  
1192  
1191  
1190  
1189  
1188  
1187  
1186  
1185  
1184  
1183  
1182  
1181  
1180  
1179  
1178  
1177  
1176  
1175  
1174  
1173  
1172  
1171  
1170  
1169  
1168  
1167  
1166  
1165  
1164  
1163  
1162  
1161  
1160  
1159  
1158  
1157  
1156  
1155  
1154  
1153  
1152  
1151  
1150  
1149  
1148  
1147  
1146  
1145  
1144  
1143  
1142  
1141  
1140  
1139  
1138  
1137  
1136  
1135  
1134  
1133  
1132  
1131  
1130  
1129  
1128  
1127  
1126  
1125  
1124  
1123  
1122  
1121  
1120  
1119  
1118  
1117  
1116  
1115  
1114  
1113  
1112  
1111  
1110  
1109  
1108  
1107  
1106  
1105  
1104  
1103  
1102  
1101  
1100  
1099  
1098  
1097  
1096  
1095  
1094  
1093  
1092  
1091  
1090  
1089  
1088  
1087  
1086  
1085  
1084  
1083  
1082  
1081  
1080  
1079  
1078  
1077  
1076  
1075  
1074  
1073  
1072  
1071  
1070  
1069  
1068  
1067  
1066  
1065  
1064  
1063  
1062  
1061  
1060  
1059  
1058  
1057  
1056  
1055  
1054  
1053  
1052  
1051  
1050  
1049  
1048  
1047  
1046  
1045  
1044  
1043  
1042  
1041  
1040  
1039  
1038  
1037  
1036  
1035  
1034  
1033  
1032  
1031  
1030  
1029  
1028  
1027  
1026  
1025  
1024  
1023  
1022  
1021  
1020  
1019  
1018  
1017  
1016  
1015  
1014  
1013  
1012  
1011  
1010  
1009  
1008  
1007  
1006  
1005  
1004  
1003  
1002  
1001  
1000

587  
586  
1211  
1210  
1209  
1208  
1207  
1206  
1205  
1204  
1203  
1202  
1201  
1200  
1199  
1198  
1197  
1196  
1195  
1194  
1193  
1192  
1191  
1190  
1189  
1188  
1187  
1186  
1185  
1184  
1183  
1182  
1181  
1180  
1179  
1178  
1177  
1176  
1175  
1174  
1173  
1172  
1171  
1170  
1169  
1168  
1167  
1166  
1165  
1164  
1163  
1162  
1161  
1160  
1159  
1158  
1157  
1156  
1155  
1154  
1153  
1152  
1151  
1150  
1149  
1148  
1147  
1146  
1145  
1144  
1143  
1142  
1141  
1140  
1139  
1138  
1137  
1136  
1135  
1134  
1133  
1132  
1131  
1130  
1129  
1128  
1127  
1126  
1125  
1124  
1123  
1122  
1121  
1120  
1119  
1118  
1117  
1116  
1115  
1114  
1113  
1112  
1111  
1110  
1109  
1108  
1107  
1106  
1105  
1104  
1103  
1102  
1101  
1100  
1099  
1098  
1097  
1096  
1095  
1094  
1093  
1092  
1091  
1090  
1089  
1088  
1087  
1086  
1085  
1084  
1083  
1082  
1081  
1080  
1079  
1078  
1077  
1076  
1075  
1074  
1073  
1072  
1071  
1070  
1069  
1068  
1067  
1066  
1065  
1064  
1063  
1062  
1061  
1060  
1059  
1058  
1057  
1056  
1055  
1054  
1053  
1052  
1051  
1050  
1049  
1048  
1047  
1046  
1045  
1044  
1043  
1042  
1041  
1040  
1039  
1038  
1037  
1036  
1035  
1034  
1033  
1032  
1031  
1030  
1029  
1028  
1027  
1026  
1025  
1024  
1023  
1022  
1021  
1020  
1019  
1018  
1017  
1016  
1015  
1014  
1013  
1012  
1011  
1010  
1009  
1008  
1007  
1006  
1005  
1004  
1003  
1002  
1001  
1000



九 本籍別内地人

臺灣在住内地人の總數は大正九年十月一日施行の國勢調査の結果に依れば、十六萬四千  
人にして内、熊本縣の一萬六千三百五十三人第一位を占め鹿児島縣は一萬六千二百七十二  
人を以て之に亞き、福岡縣は遙かに下りて八千八百九十八人を以て第三位に在り、廣島、  
山口の兩縣順次に亞き其の最も少きは青森縣の二百八十二人なり。

府縣	人口	百分比	順位
熊本縣	一六三五三	一〇二	一
鹿児島縣	一六三七三	九九	二
廣島縣	八八八六	五四	三
山口縣	八四〇一	五二	四
福岡縣	七四九三	四五	五
佐賀縣	六七八〇	四二	六
長門縣	六三〇七	三九	七
宮城縣	六〇八八	三七	八
大分縣	四六五五	二八	九
分	四六五五	二八	二〇

三德茨京和靜島福香石沖岐高宮岡愛愛新兵  
 歌  
 重島城都山岡根島川川繩阜知崎山媛知湯庫

兵	四四五六	二七	一三
新	四〇一〇	二六	一四
愛	三六七〇	二二	一五
岡	三三〇〇	二〇	一六
宮	二九八〇	一八	一七
高	二七〇〇	一七	一八
岐	二六〇〇	一六	一九
沖	二四〇〇	一五	二〇
石	二二〇〇	一四	二一
香	二〇〇〇	一三	二二
福	一八〇〇	一二	二三
島	一六〇〇	一〇	二四
靜	一四〇〇	九	二五
和	一二〇〇	八	二六
京	一〇〇〇	七	二七
茨	八〇〇	六	二八
德	六〇〇	五	二九
三	四〇〇	四	三〇









一一 臺灣語を話す内地人

内地人にして臺灣語を話すもの數は、明治三十八年の六千八百二十九人より、大正四年の一萬六千五百九十一人に増加し、更に大正九年には二萬七千二百七十三人に増加したるも、その内地人千に對する割合は、大正四年の百二十二・五分より、大正九年の百五十二分に減退したり。

年	總數		男女別内地人千に付	
	男	女	男	女
明治三十八年	六八二九	六〇〇〇	一〇〇	一七九
大正四年	一六五五	一四〇〇	一七六	一五九
同 九年	二七二五	二四六六	三三五	三三二

本表は第一回及第二回戸口調査並に第一回國勢調査の結果にして何れも十月一日現在なり。

一二 國語を解する本島人

本島人にして國語を解するもの數は、明治三十八年の一萬一千二百七十人より、大正四年の五萬四千三百三十七人に増加し、更に大正九年には九萬九千六十五人に増加したるも、尚ほ本島人千に對し僅かに二十八人六分を算するに過ぎず。

年	總數		男女別本島人千に付	
	男	女	男	女
明治三十八年	一、一三〇	一、〇六一	一〇〇	八八
大正四年	五、四三〇	五、〇一〇	一、六三	一、〇五
同 九年	九、九〇五	八、八八〇	三、九二	三、六

本表は第一回及第二回戸口調査並に第一回國勢調査の結果にして何れも十月一日現在なり。

年	婚姻	離婚	出生(生産)	死亡	自然増加 (出生超過)
同九年	50,025	4,733	1,700,868	1,192,777	508,091
同十年	48,028	4,688	1,712,968	1,222,222	490,746
同十一年	54,811	4,322	1,728,678	1,252,222	476,456
同十二年	59,000	4,366	1,540,066	1,041,066	500,000
同十三年	53,101	4,227	1,541,122	1,041,066	500,056
同十四年	57,203	4,066	1,541,122	1,041,066	500,056
昭和元年	48,778	4,822	1,541,122	1,041,066	500,056
同二年	45,577	4,552	1,541,122	1,041,066	500,056

一四 婚姻、離婚、出生及死亡

臺灣に於ける最近十六年間の婚姻、離婚、出生及死亡を觀るに、人口手に付婚姻は大正元年の十一件三分より昭和二年の十件七分に減少し、離婚は同じく一件五分より昭和二年には一件七厘に減少し、出生は大體に於て増加の傾向を有し、大正元年の四十一人九分より昭和二年には四十三人五分に増加せり。死亡は年に依り非常の相違あり、大正七年の如き三十四人八分の多きに達したるも、昭和二年には二十二人三分に減退したり。従つて出生の死亡超過数は年により甚だしき懸隔あり、大正七年の如き僅かに二萬人に過ぎざりしが、昭和二年には九萬人に達したり。

年	婚姻	離婚	出生(生産)	死亡	自然増加 (出生超過)
大正元年	54,915	5,022	1,690,868	1,192,777	498,091
同二年	52,127	5,120	1,712,968	1,222,222	490,746
同三年	57,203	4,688	1,728,678	1,252,222	476,456
同四年	62,279	4,322	1,540,066	1,041,066	500,000
同五年	57,203	4,227	1,541,122	1,041,066	500,056
同六年	52,127	4,066	1,541,122	1,041,066	500,056
同七年	60,021	4,968	1,541,122	1,041,066	500,056
同八年	56,021	4,822	1,541,122	1,041,066	500,056

一五 出生率

臺灣の出生率は之を最近十六年間に就て觀るに、年に依りて増減ありと雖概して増加の趨勢にあり、昭和二年は人口千に付四十三人六分を示せり。更に之を内地其他と比較するに、臺灣は其の割合最も高く、北海道之に亞き、關東州最も低し。又列國中出生率の最も高きは智利の四十八人(昭和元年)なるが故に、我臺灣の出生率は世界に於て最も高き部類に屬す。

一 出生率 (人口千に付)

年	平均	内地人	本島人	外國人
昭和二年	四九	二九八	四五五	二二八
昭和三年	四四	三〇七	四五〇	一五五
昭和四年	四二	三〇八	四二〇	一六〇
昭和五年	四〇九	三〇七	四二四	一八八
昭和六年	三八二	三〇五	三八四	一八六
昭和七年	三六二	三〇五	四〇九	一九三
昭和八年	三六二	三〇五	四〇九	一九三
昭和九年	三六二	三〇五	四〇九	一九三
昭和十年	三六二	三〇五	四〇九	一九三
昭和十一年	三六二	三〇五	四〇九	一九三
昭和十二年	三六二	三〇五	四〇九	一九三
昭和十三年	三六二	三〇五	四〇九	一九三
昭和十四年	三六二	三〇五	四〇九	一九三
昭和十五年	三六二	三〇五	四〇九	一九三
昭和十六年	三六二	三〇五	四〇九	一九三

年	出生率
昭和九年	四〇一
昭和十年	四〇一
昭和十一年	四〇一
昭和十二年	四〇一
昭和十三年	四〇一
昭和十四年	四〇一
昭和十五年	四〇一
昭和十六年	四〇一
昭和十七年	四〇一
昭和十八年	四〇一
昭和十九年	四〇一
昭和二十年	四〇一

二 内地其他の出生率累年比較 (人口千に付)

年	臺灣	朝鮮	樺太	關東州	北海道	内地府縣
大正元年	四九	二九	三〇	二九	四九	三九
二年	四九	二九	三〇	二九	四九	三九
三年	四九	二九	三〇	二九	四九	三九
四年	四九	二九	三〇	二九	四九	三九
五年	四九	二九	三〇	二九	四九	三九
六年	四九	二九	三〇	二九	四九	三九
七年	四九	二九	三〇	二九	四九	三九
八年	四九	二九	三〇	二九	四九	三九
九年	四九	二九	三〇	二九	四九	三九
十年	四九	二九	三〇	二九	四九	三九
十一年	四九	二九	三〇	二九	四九	三九
十二年	四九	二九	三〇	二九	四九	三九
十三年	四九	二九	三〇	二九	四九	三九
十四年	四九	二九	三〇	二九	四九	三九
十五年	四九	二九	三〇	二九	四九	三九
十六年	四九	二九	三〇	二九	四九	三九
十七年	四九	二九	三〇	二九	四九	三九
十八年	四九	二九	三〇	二九	四九	三九
十九年	四九	二九	三〇	二九	四九	三九
二十年	四九	二九	三〇	二九	四九	三九

同九年	四〇二	二七六	一六一	一六三	四一五	三〇七
同十年	四〇三	二九七	一六一	一五九	三〇五	三〇九
同十一年	四〇五	三〇八	一六一	一六〇	三〇四	三〇九
同十二年	四〇六	三〇九	一六一	一六〇	三〇四	三〇九
同十三年	四〇七	三〇九	一六一	一六〇	三〇四	三〇九
同十四年	四〇八	三〇九	一六一	一六〇	三〇四	三〇九
昭和元年	四〇九	三〇九	一六一	一六〇	三〇四	三〇九
同二年	四一〇	三〇九	一六一	一六〇	三〇四	三〇九

朝鮮、樺太、關東州(州内、鐵道附屬地、領事館)は同統計書に依り算出す。  
北海道、内地府縣は帝國統計年鑑に依り算出す。

一六 死亡率

臺灣の死亡率は之を最近十六年間に就て觀るに、是れ亦高低常ならずと雖、大正十二年には著しく低下し、人口千に付二十一人六分を以て最低の紀錄を示せり。内地人の死亡率は之を本島人に比すれば甚だ低く、昭和二年には本島人二十二・九分なるに對し、内地人は僅かに十二人を示せり。

更に之を内地其他と比較するに、死亡率の最も低きは關東州にして、北海道之に亞き、最近は我臺灣最も高率を示しつゝありしが昭和二年には樺太の二十六・二分最も高し。又列國中死亡率の最も高きは、智利にして昭和元年には二十七・三分を示せり。

一 死亡率 (人口千に付)

大正元年	平均	内地人	本島人	外國人
同二年	二五・五	一五・八	一五・八	一五・四
同三年	二五・五	一五・八	一五・八	一五・四
同四年	二五・五	一五・八	一五・八	一五・四
同五年	二五・五	一五・八	一五・八	一五・四
同六年	二五・五	一五・八	一五・八	一五・四
同七年	二五・五	一五・八	一五・八	一五・四
同八年	二五・五	一五・八	一五・八	一五・四
同九年	二五・五	一五・八	一五・八	一五・四
同十年	二五・五	一五・八	一五・八	一五・四
同十一年	二五・五	一五・八	一五・八	一五・四
同十二年	二五・五	一五・八	一五・八	一五・四
同十三年	二五・五	一五・八	一五・八	一五・四
同十四年	二五・五	一五・八	一五・八	一五・四
昭和元年	二五・五	一五・八	一五・八	一五・四
同二年	二五・五	一五・八	一五・八	一五・四

同九年 同十年 同十一年 同十二年 同十三年 同十四年 昭和元年 同二年

朝鮮、樺太、關東州(州内、鐵道附屬地、領事館)は同國統計書に依り算出す。  
北海道、内地府縣は帝國統計年鑑に依り算出す。

大正元年 同二年 同三年 同四年 同五年 同六年 同七年 同八年

關東州 樺太 北海道 内地府縣

二 内地其他の死亡率累年比較 (人口千に付)

同九年	同十年	同十一年	同十二年	同十三年	同十四年	昭和元年	同二年
三五五	三五四	三五三	三五二	三五二	三五二	三五二	三五二
一九一	一九一	一九一	一九一	一九一	一九一	一九一	一九一
三五三	三五三	三五三	三五三	三五三	三五三	三五三	三五三
一九一	一九一	一九一	一九一	一九一	一九一	一九一	一九一
三五三	三五三	三五三	三五三	三五三	三五三	三五三	三五三
一九一	一九一	一九一	一九一	一九一	一九一	一九一	一九一
三五三	三五三	三五三	三五三	三五三	三五三	三五三	三五三
一九一	一九一	一九一	一九一	一九一	一九一	一九一	一九一

一七 人口の増加

臺灣の人口は、明治三十八年十月一日施行の第一回戸口調査の結果に依れば、三百萬なりしものが、大正元年末には三百三十五萬に増加し、更に昭和二年末には四百二十五萬に達し過去十六年間に二割七分の増加を示せり。更に人口増加の趨勢を内地其の他と比較するに、増加の割合最も大なるは樺太にして、關東州之に亞き、北海道、朝鮮、臺灣、内地の順序を以て之に亞く。

一 最近十六箇年間の人口 (各年末現在)

大正元年	二年	三年	四年	五年	六年	七年	八年	九年
臺灣	3,350,000	3,400,000	3,450,000	3,500,000	3,550,000	3,600,000	3,650,000	3,700,000
樺太	1,700,000	1,750,000	1,800,000	1,850,000	1,900,000	1,950,000	2,000,000	2,050,000
關東州	1,800,000	1,850,000	1,900,000	1,950,000	2,000,000	2,050,000	2,100,000	2,150,000
北海道	1,800,000	1,850,000	1,900,000	1,950,000	2,000,000	2,050,000	2,100,000	2,150,000
朝鮮	1,800,000	1,850,000	1,900,000	1,950,000	2,000,000	2,050,000	2,100,000	2,150,000
内地府縣	1,800,000	1,850,000	1,900,000	1,950,000	2,000,000	2,050,000	2,100,000	2,150,000

二 内地其の他との累年人口指数比較 (各年末現在)

大正元年	二年	三年	四年	五年	六年	七年
臺灣	100	101	102	103	104	105
樺太	100	101	102	103	104	105
關東州	100	101	102	103	104	105
北海道	100	101	102	103	104	105
朝鮮	100	101	102	103	104	105
内地府縣	100	101	102	103	104	105

本表には藩地の蕃社に居住する蕃人を除き、平地の蕃社に居住する蕃人は之を算入せり。



同八年	106	116	101	120	109
同九年	110	117	114	133	108
同十年	113	121	108	141	107
同十一年	114	122	109	149	107
同十二年	116	124	111	156	110
同十三年	118	126	113	164	111
同十四年	120	128	115	172	112
昭和元年	122	130	117	180	113
同二年	124	132	119	188	114

朝鮮、樺太、關東州(州内、鐵道附屬地、領事館)は同統統計書に依る。  
北海道、内地府縣は帝國統計年鑑に依る。  
内地府縣及北海道の大正九年以後は十月一日現在なり。

一八 蕃 人

臺灣の蕃人は之をタイヤル、サイセツト、ツモン、ツオウ、パイロン、アミ及ヤミの七種族に分つ。昭和二年末現在蕃社数は七百四十、戸數二萬三千二百二十七、人口十三萬九千人なるも、就中五萬二千四百人は平地の蕃社に居住するか故に、實際蕃地に居住するもの數は八萬六千八百人なり。  
各種族中人口最も多きはパイロン族にして、總人口の約三割を占め、アミ族の二割九分、タイヤル族の二割三分を順次に占む。

總數	137,377	69,759	67,618	100.0
タイヤル	38,908	16,145	22,763	28.6
サイセツト	12,779	6,570	6,209	9.9
ツモン	18,561	9,551	9,010	13.3
ツオウ	10,668	1,100	9,568	14.1
パイロン	42,295	10,608	31,687	39.9
ヤミ	11,111	10,574	537	0.7
アミ	1,702	847	855	1.3

本表中平地の蕃社に居住する蕃人五萬二千四百八十七人は本島人として人口統計に附せらる。

# 一九 行政區劃

臺灣の地方行政區劃は、幾多の變遷を経たる後、大正九年九月一日に至り、地方官官制に根本的改正を加へ、従来の十二廳を五州二廳に改めたりし。大正十五年七月一日復た澎湖廳を設置して三廳となり現に五州は之を五市四十五郷に分ち、郡の下には三十一街、二百二十二庄を置き、三廳は之を十支廳に分ち、支廳の下には三街五庄十九區を置く。

全	臺	新	臺	高	臺	花	港	澎
北	竹	中	南	雄	東	湖		
島	州	州	州	州	廳	廳		
支廳	支廳	支廳	支廳	支廳	支廳	支廳	支廳	支廳
支廳	支廳	支廳	支廳	支廳	支廳	支廳	支廳	支廳
支廳	支廳	支廳	支廳	支廳	支廳	支廳	支廳	支廳
支廳	支廳	支廳	支廳	支廳	支廳	支廳	支廳	支廳
支廳	支廳	支廳	支廳	支廳	支廳	支廳	支廳	支廳
支廳	支廳	支廳	支廳	支廳	支廳	支廳	支廳	支廳
支廳	支廳	支廳	支廳	支廳	支廳	支廳	支廳	支廳
支廳	支廳	支廳	支廳	支廳	支廳	支廳	支廳	支廳
支廳	支廳	支廳	支廳	支廳	支廳	支廳	支廳	支廳

本表は昭和三年十二月末現在なり。

### 二〇 州及廳の面積

五州三廳中、面積の最大なるは薩中州の四百七十八方里餘にして、高雄、薩南、花遊港、新竹、薩北、薩東の順序を以て之に亞き、澎湖廳は僅かに八方里餘を以て最小の地位を占む。

今之を内地府縣に比較すれば、薩中州は熊本、宮城の中間に、高雄州は山口、三重の中間に、薩南州は愛媛、千葉の中間に、花遊港廳、新竹州及薩北州は和歌山、京都の中間に、薩東廳は奈良、鳥取の中間に位し、澎湖廳は面積狭小にして比較すべき府縣なし。

#### 一 州及廳の面積

州及廳	面積 (方里)	百分比例
薩中州	478.5	100.0
薩南州	457.7	95.7
新竹州	458.8	96.0
高雄州	487.1	101.7
薩東廳	388.8	81.3
澎湖廳	115.1	24.1
花遊港	107.7	22.5
薩北廳	100.0	20.9

鳥  
取  
縣

三六五

(三六八)

二 内地府縣との面積比較

面積

藤	山	高	三	愛	千	和	花	新	京	京	奈
縣	州	山	縣	縣	縣	縣	縣	縣	府	府	縣
本	中	口	雄	重	南	樂	港	山	東	真	縣
縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣

四三三	四六二	四七五	四八七	四九七	五〇〇	五〇二	五〇三	五〇四	五〇五	五〇六	五〇七
(四三三)	(四六二)	(四七五)	(四八七)	(四九七)	(五〇〇)	(五〇二)	(五〇三)	(五〇四)	(五〇五)	(五〇六)	(五〇七)

### 二 州及廳の人口

五州三廳中人口の最も多きは薩南州の百九萬人にして、薩中州は九十三萬人を以て之に亞き、以下薩北、新竹、高嶺、花蓮港、澎湖、臺東の順序を以てし、一方里の人口は澎湖の七千五百人最も高く、臺東廳の六百八十人最も低し。

今之を内地府縣に比較すれば、薩南州は栃木、宮城の中間に、薩中州は大分、岩手の中間に、薩北州は岩手、青森の中間に、新竹州は滋賀、山梨の中間に、高嶺州は奈良、沖縄の中間に位し、花蓮港、臺東及澎湖の三廳は人口餘りに少くして比較すべき類の府縣なし。

#### 一 州及廳の人口 (昭和二年末現在)

州	實數	百分比	平地(養馬を以てする面積)	全面積	一方里に付人口
高嶺州	四三、五〇〇	一〇〇	三、四七〇	一八、五九〇	二、三九六
薩南州	八八、七二二	二〇四	四、八九一	二九、四九八	二、九八七
新竹州	六五、五五八	一五〇	三、七三七	二二、三二七	二、九三七
薩北州	九二、七五四	二二九	四、〇四四	一九、七三〇	四、七〇八
薩東廳	一〇、〇五一	二五八	三、〇四五	三〇、〇〇〇	三、三三三
澎湖廳	五、五九九	一三二	二、九六九	一五、七九一	一、九七九
花蓮港廳	四、〇八一	一〇〇	一、八九一	一八、五九〇	二、三九六
臺東廳	六、八七一	一六六	三、四七〇	一八、五九〇	二、三九六

### 二 内地府縣との人口比較

(昭和二年末(内地府縣は昭和二)在(年十月二日現在))

本表には藩地の藩社に居住する蕃人を含みます、但し一方里に付人口の全面積には藩地居住の蕃人をも加へて算出せり。

府縣	人口	面積	一方里に付人口
栃木縣	一、〇八、〇〇〇	一、〇八、〇〇〇	一、〇〇〇
宮城縣	一、〇二〇、〇〇〇	一、〇二〇、〇〇〇	一、〇〇〇
大分縣	一、〇八、〇〇〇	一、〇八、〇〇〇	一、〇〇〇
岩手縣	九八、七二二	九八、七二二	一、〇〇〇
青森縣	九二、七五四	九二、七五四	一、〇〇〇
滋賀縣	八八、七二二	八八、七二二	一、〇〇〇
山梨縣	八八、七二二	八八、七二二	一、〇〇〇
新竹縣	六五、五五八	六五、五五八	一、〇〇〇
薩南縣	八八、七二二	八八、七二二	一、〇〇〇
薩北縣	六五、五五八	六五、五五八	一、〇〇〇
薩東縣	一〇、〇五一	一〇、〇五一	一、〇〇〇
澎湖縣	五、五九九	五、五九九	一、〇〇〇
花蓮港縣	四、〇八一	四、〇八一	一、〇〇〇
臺東縣	六、八七一	六、八七一	一、〇〇〇

奈 高 沖 花 彭 嘉  
其 雄 彌 湖 東 東  
州 縣 縣 縣 縣 縣  
縣 縣 縣 縣 縣 縣

五九、九〇〇  
五五、五九六  
五五、八〇〇  
六三、六四四  
六二、四四二  
四四、四八八

内地府縣は帝國統計年鑑に依る。

三三 主要都市

臺灣には五市、三十四街あり。就中人口二萬以上の市及街は二十四にして、その第一位を占むるは臺北市の二十一萬、之に次くは臺南市の八萬九千、基隆市の七萬、嘉義街の五萬、高雄市の四萬九千、臺中市の四萬六千、新竹街の四萬一千等なり。而して東部に於ける廳所在地たる臺東、花蓮港の兩街は僅かに九千を有するのみなり。次に州及廳に郡役所の所在地たる五市、三街を内地其の他の都市に比較するに、大正十四年十一月一日現在に依れば、我が臺北市は、大阪、東京、名古屋、京都、神戸、横濱、京城、廣島の八市に亞て實に第九位を占め、長崎市の上に位し、臺南市は平壤、靜岡兩市の中間に、基隆市は松本、福井兩市の中間に、高雄市は秋田、郡山兩市の中間に、臺中市は福島、四日市兩市の中間に、新竹街は沼津、月形兩市の中間に位す。而して臺東、花蓮港の兩街は共にその人口樺太の首府豊原よりも少し。

一 主要都市の人口 (昭和二年末現在)

總數	内地人	本島人	外國人	順位
臺北市(臺北州)	三二、六六六	三二、六六六	〇	一
臺南市(臺南州)	八九、八三三	八九、八三三	〇	二
基隆市(臺北州)	六九、九〇〇	六九、九〇〇	〇	三
嘉義街(臺南州)	五〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇	〇	四

高崎市(高松市)	四九一五	三三〇〇	四六八五	一一八四
新中街(新中街)	四二五五	二七五〇	四〇〇〇	一一五六
新竹街(新竹街)	四二〇〇	四七六三	四六〇〇	一一八八
鹿港街(鹿港街)	三三〇三	三五一	三三〇三	一一五七
屏東街(高雄州)	四〇一〇	三五一	四〇一〇	一一五七
大溪街(新竹州)	二八八〇	九〇七	二八八〇	一一〇〇
斗六街(新竹州)	二七五八	四〇七	二七五八	一一〇〇
清水街(臺南州)	二七五八	四〇七	二七五八	一一〇〇
麻豆街(臺南州)	二六二二	四〇七	二六二二	一一〇〇
員林街(臺南州)	二六〇〇	四〇七	二六〇〇	一一〇〇
員林街(臺南州)	二五五〇	四〇七	二五五〇	一一〇〇
埔里街(同)	二五二〇	四〇七	二五二〇	一一〇〇
南投街(同)	二四〇〇	四〇七	二四〇〇	一一〇〇
宜蘭街(臺北州)	二二〇〇	四〇七	二二〇〇	一一〇〇
淡水街(同)	二二〇〇	四〇七	二二〇〇	一一〇〇
馬公街(澎湖廳)	二二〇〇	四〇七	二二〇〇	一一〇〇
西螺街(臺南州)	二二〇〇	四〇七	二二〇〇	一一〇〇
北港街(同)	二二〇〇	四〇七	二二〇〇	一一〇〇
桃園街(新竹州)	二二〇〇	四〇七	二二〇〇	一一〇〇

彰化街(鹿中州)

鹿東街(鹿東廳)

彰化街(鹿中州) 二〇〇五  
 鹿東街(鹿東廳) 九六二  
 花蓮港街(花蓮港廳) 九六二  
 本表には人口二萬以上の市及街のみを挙げ、且つ廳所在地たる鹿東、花蓮港兩街を  
 掲ぐ。

二 内地其の他の都市との人口比較

(大正十四年) (昭和二年末現在)  
 (十月一日現在)

高崎市	二〇〇五
新中街	二七五〇
新竹街	四六〇〇
鹿港街	三三〇三
屏東街	四〇一〇
大溪街	二八八〇
斗六街	二七五八
清水街	二七五八
麻豆街	二六二二
員林街	二六〇〇
員林街	二五五〇
埔里街	二五二〇
南投街	二四〇〇
宜蘭街	二二〇〇
淡水街	二二〇〇
馬公街	二二〇〇
西螺街	二二〇〇
北港街	二二〇〇
桃園街	二二〇〇





### 二四 耕地面積

臺灣の耕地は總面積の二割餘を占め、其の面積は八十萬町歩（八十二萬甲）にして内、田三十九萬町歩（四十萬甲）畑四十一萬町歩（四十二萬甲）なり。今之を内地其の他と比較するに、總面積に對する耕地面積の割合最も大なるは、關東州の五割二分にして、臺灣は之に亞き、朝鮮の二割はその第三位を占む。耕地の内、田の割合畑より大なるは内地府縣のみにして、樺太の知きは全然田を有せず。

府縣	耕地面積		百分比	
	總數	田	田	畑
臺南	八〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	三七・五	六二・五
朝鮮	四八,〇〇〇	一八,〇〇〇	三七・五	六二・五
樺太	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇〇	〇
關東	一五〇,〇〇〇	七五,〇〇〇	五〇	五〇
北海道	一,〇〇〇,〇〇〇	五〇〇,〇〇〇	五〇	五〇
内地府縣	五,〇〇〇,〇〇〇	二,五〇〇,〇〇〇	五〇	五〇
合計	六,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	五十	五十

本表は昭和二年末の事實なり。  
 朝鮮、樺太、關東州（府内、鐵道附屬地）は同應統計書に依る。  
 北海道、内地府縣は農林省統計表に依る。

二五 水利

臺灣に於ける埤圳の数は、七千二百四十にして内、水利組合百四、公共埤圳三、認定外埤圳七千三百三十三なり。又其の灌漑排水面積は三十九萬甲にして内其の五割は水利組合の灌漑に屬す。

總	埤圳數	灌漑排水面積	灌漑排水面積百分比例
水利組合	104	19,770	50.1
公共埤圳	3	10,512	26.8
認定外埤圳	7,326	8,718	22.1
總計	7,433	39,000	100.0

本表は昭和二十年度末現在の事實なり。  
本表の外工事施行中の組合一あり。

二六 農 産

臺灣の農産物は、昭和二年中の總生産價額二億三千三百萬圓にして内普通作物一億五千四百萬圓、特用作物五千八百萬圓、園藝作物二千二百萬圓なり。  
 更に之を作物別に觀るに、米は一億三千萬圓を以て第一位を占め、甘蔗は四千六百萬圓を以て之に亞き、甘蔗の二千百萬圓、蔬菜類の一千百萬圓、茶の六百五十萬圓、薯蕷の六百四十萬圓、落花生の二百六十萬圓、柑橘の百七十萬圓、豆類の百六十萬圓等順次に亞く。

總	普通作物	米(玄米)	甘蔗	豆類	小豆	其他	特用作物	茶
生産價額	1,540,000,000	1,300,000,000	4,600,000,000	1,000,000,000	650,000,000	200,000,000	580,000,000	1,540,000,000
百分比	100.0	84.4	29.9	6.5	4.2	1.3	3.8	100.0
作付面積	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
收穫高	1,540,000	1,300,000	4,600,000	1,000,000	650,000	200,000	580,000	1,540,000

落花生	薯蕷	黄麻	苧麻	苧草	苧花	苧葉	苧物	苧他	苧其	苧園藝作物	苧柑	苧龍眼	苧檳榔	苧椰子	苧李	苧蔬菜	苧其他		
1,540,000,000	1,300,000,000	4,600,000,000	1,000,000,000	650,000,000	200,000,000	580,000,000	1,540,000,000	1,540,000,000	1,540,000,000	1,540,000,000	1,540,000,000	1,540,000,000	1,540,000,000	1,540,000,000	1,540,000,000	1,540,000,000	1,540,000,000	1,540,000,000	
100.0	84.4	29.9	6.5	4.2	1.3	3.8	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
1,540,000	1,300,000	4,600,000	1,000,000	650,000	200,000	580,000	1,540,000	1,540,000	1,540,000	1,540,000	1,540,000	1,540,000	1,540,000	1,540,000	1,540,000	1,540,000	1,540,000	1,540,000	1,540,000

蠶 繭

五八六萬

〇

一

?

二七 畜 産

臺灣の畜産物生産總價額は、昭和二年に三千九百萬圓を算し内家畜生産三千三百萬圓、家禽生産五百萬圓、牛乳三十五萬圓なり。  
家畜生産中、豚は三千萬圓を以て第一位を占め、水牛の二百萬圓之に亞く。家禽生産中第一位を占むるは鶏の四百萬圓なり。

總 家 畜 類  
水 牛 畜 類  
黄 牛  
其 他 の 牛  
豚 羊  
山 羊  
其 他 禽 類  
鷲 鷄

生産價額  
八八四七三三  
三三三三三三  
二〇〇六八二  
一八八三三  
一八八三三  
三三三三三  
三三三三三  
三三三三三  
三三三三三  
三三三三三  
三三三三三

生産價額  
百分比例  
一〇〇  
八五  
一八  
一八  
〇五  
七〇  
〇六  
〇一  
三  
三

川竹薪木竹類 竹類 薪木類 竹類

眼 竹 芝 類材類 炭材類 肉 草 皮 櫻 綿 絲 黄

品名	價額	百分比額
川竹薪木竹類	1,000,000	100.0
竹類	1,000,000	100.0
薪木類	1,000,000	100.0
竹類	1,000,000	100.0
眼	1,000,000	100.0
竹	1,000,000	100.0
芝	1,000,000	100.0
類材類	1,000,000	100.0
炭材類	1,000,000	100.0
肉	1,000,000	100.0
草	1,000,000	100.0
皮	1,000,000	100.0
櫻	1,000,000	100.0
綿	1,000,000	100.0
絲	1,000,000	100.0
黄	1,000,000	100.0

二八 林産

臺灣の林産物生産總價額は、昭和二年に一千四百萬圓を算し内用材の五百八十萬圓第一位を占め、竹材の三百六十萬圓、薪材の百九十萬圓、木炭の百五十萬圓等順次に続く。

鳥 糞 七 面 牛 乳

品名	價額	百分比額
鳥糞	1,000,000	100.0
七面	1,000,000	100.0
牛乳	1,000,000	100.0

其製  
原料  
他料

三二六  
三〇三

〇・一

二九 礦 産

臺灣の礦産總價額は、昭和二年に二千百萬圓を算し内石炭は總價額の八割、即ち一千六百九十萬圓を以て第一位を占め、石油は百九十萬圓を以て之に亞き、金銅礦の百二十七萬圓、金の六十萬圓等順次之に亞く。

種類	産 額	價 額	百分比例
石 炭	一、八五三、五七噸	三、一〇一、三三〇	100.0
金 石	一、八三三、三斤	六、〇〇八	〇・二
沈 澱	一、四二七、七斤	一、七、〇〇〇	〇・五
石 油	二、六五四、一石	一、九、八七五	〇・六
銅 礦	一、八三三、三斤	一、二、九七六	〇・四
金 礦	一、四二七、七斤	四、九〇四	〇・一
硫 磺	一、四二七、七斤	三、〇三三	〇・一
銀 金	一、四二七、七斤	一、一〇八	〇・〇
砂 金	一、四二七、七斤	一、一〇八	〇・〇
天然揮發油	一、四二七、七斤	一、〇〇六	〇・〇

三〇 水産

臺灣の水産總價額は、昭和二年には一千七百九十萬圓を算し内水産漁獲物一千百萬圓、養殖場漁獲物三百九十萬圓、水産製造物二百五十萬圓、製鹽六十萬圓なり。  
 更に之を品目別に觀れば、虱目魚の二百三十萬圓第一位を占め、鯖の二百萬圓、鯛の百八十萬圓、鱈節の百四十萬圓、鰹の百三十萬圓等順次に亞く。

品名	價額	百分比額
總水産漁獲物	1,790,000	100.0
鯛	1,000,000	55.9
鰹	1,200,000	67.0
鱈	1,400,000	78.2
鯖	1,800,000	100.6
鮪	2,000,000	111.7
鮭	2,500,000	139.7
鮭魚	3,000,000	167.6
花魚	3,500,000	195.5





三一 工業

臺灣の工業總生産價額は、昭和二年に二億一千四百萬圓を算し内砂糖の一億三千四百萬圓は群を抜いてその第一位を占め、再製茶の一千二百萬圓、木製品の四百八十萬圓、酒精の四百六十萬圓、調合肥料の三百七十萬圓、セメントの三百三十萬圓等順次之に亞ぐ。

品名	生産價額	百分比例
總計	214,400,000	100.0
砂糖	134,000,000	62.5
酒精	460,000	0.2
再製茶	12,000,000	5.6
原動機及其附屬機械類其他	3,200,000	1.5
木製品	4,800,000	2.2
セメント	3,300,000	1.5
染料	1,800,000	0.8
麵粉	1,800,000	0.8
煉瓦	2,000,000	0.9
耐火材料	1,700,000	0.8
調合肥料	3,700,000	1.7

品名	生産價額	百分比例
金銀細工	3,000,000	1.4
味噌及醬油	2,800,000	1.3
植物性油	1,650,000	0.8
及同油類	1,360,000	0.6
敷瓦及屋根瓦	1,500,000	0.7
金銀紙	2,900,000	1.3
製粉	1,200,000	0.6
綿布、麻布類	1,200,000	0.6
精製(稅抜)	2,500,000	1.2
帽子	1,900,000	0.9
靴	1,500,000	0.7
製氷	1,200,000	0.6
竹工	1,500,000	0.7
鳳梨罐詰	3,200,000	1.5
其他	1,800,000	0.8

三三糖業

臺灣の糖業は昭和三年期に於て、公稱資本金二億九千百萬圓、作業工場數百五十九、作業能力四萬一千米噸を有し、其の製糖高九億六千七百萬斤に達す。就中新式製糖會社の數は十一にして作業工場數四十五、作業能力三萬九千九百九十九米噸を有し、その製糖高九億五千三百萬斤を算す。

總	公稱資本金	作業工場數	製糖高	製糖高百分比例
新式製糖會社	2,900,000,000	159	9,500,000,000	100%
臺灣製糖	2,200,000,000	11	9,000,000,000	94.7%
新興製糖	1,000,000,000	1	500,000,000	5.3%
明治製糖	800,000,000	1	1,000,000,000	10.5%
大日本製糖	500,000,000	1	1,700,000,000	17.8%
鹽水港製糖	200,000,000	1	1,700,000,000	17.8%
新高製糖	200,000,000	1	1,000,000,000	10.5%
帝國製糖	1,800,000,000	1	1,700,000,000	17.8%
昭和製糖	300,000,000	1	1,000,000,000	10.5%
盛東製糖	1,500,000,000	1	300,000,000	3.1%

製糖會社	公稱資本金	作業工場數	製糖高	製糖高百分比例
新竹製糖	700,000,000	1	800,000,000	8.4%
沙龍製糖	2,000,000,000	1	2,500,000,000	26.3%
改良精糖	800,000,000	1	600,000,000	6.3%
舊式精糖	100,000,000	1	700,000,000	7.4%

昭和三年期とは昭和二年十一月より同三年十月に至る期間を云ふ。

貿易

臺灣の貿易は之を外國貿易及内地貿易(臺灣内地間貿易)の二種に分つべきも、今之を總括すれば明治三十年の三千一百萬圓より大正元年の二億二千五百萬圓に進みたり。大正二年には更に三億圓を突破せり。然るに大正十年及十一年には世界經濟界の不況に伴ひ再び四億三千萬圓に達し、人口一人當百二圓を算せり。次に貿易總額に對する内外兩貿易の割合を觀るに、内地貿易は常に過半数を占め少くも七割、多きは七割八分に達す。

貿易總表

年	總額		百分比例		平均
	總額	指數	外國貿易	内地貿易	
大正元年	2,250,000,000	100	1,000,000,000	44.4	100
大正二年	2,750,000,000	122	1,250,000,000	45.5	105
大正三年	2,800,000,000	124	1,300,000,000	46.4	106
大正四年	2,900,000,000	129	1,350,000,000	46.5	108
大正五年	3,000,000,000	133	1,400,000,000	46.7	110
大正六年	3,100,000,000	138	1,450,000,000	46.8	112
大正七年	3,200,000,000	142	1,500,000,000	46.9	114
大正八年	3,300,000,000	147	1,550,000,000	47.0	116
大正九年	3,400,000,000	151	1,600,000,000	47.1	118
大正十年	3,500,000,000	156	1,650,000,000	47.2	120
大正十一年	3,600,000,000	160	1,700,000,000	47.2	122
大正十二年	3,700,000,000	164	1,750,000,000	47.3	124
大正十三年	3,800,000,000	169	1,800,000,000	47.4	126
大正十四年	3,900,000,000	173	1,850,000,000	47.4	128
大正十五年	4,000,000,000	178	1,900,000,000	47.5	130
大正十六年	4,100,000,000	183	1,950,000,000	47.6	132
大正十七年	4,200,000,000	188	2,000,000,000	47.6	134
大正十八年	4,300,000,000	193	2,050,000,000	47.7	136
大正十九年	4,400,000,000	198	2,100,000,000	47.7	138
大正二十年	4,500,000,000	203	2,150,000,000	47.8	140

外國貿易

年	總額		百分比例		平均
	總額	指數	輸出	輸入	
大正元年	1,750,000,000	100	850,000,000	48.6	100
大正二年	2,100,000,000	119	1,000,000,000	47.6	105
大正三年	2,150,000,000	120	1,050,000,000	48.8	106
大正四年	2,250,000,000	126	1,100,000,000	48.9	108
大正五年	2,350,000,000	132	1,150,000,000	49.0	110
大正六年	2,450,000,000	137	1,200,000,000	49.0	112
大正七年	2,550,000,000	144	1,250,000,000	49.0	114
大正八年	2,650,000,000	151	1,300,000,000	49.1	116
大正九年	2,750,000,000	157	1,350,000,000	49.1	118
大正十年	2,850,000,000	163	1,400,000,000	49.1	120
大正十一年	2,950,000,000	169	1,450,000,000	49.2	122
大正十二年	3,050,000,000	174	1,500,000,000	49.2	124
大正十三年	3,150,000,000	180	1,550,000,000	49.2	126
大正十四年	3,250,000,000	186	1,600,000,000	49.2	128
大正十五年	3,350,000,000	191	1,650,000,000	49.3	130
大正十六年	3,450,000,000	197	1,700,000,000	49.3	132
大正十七年	3,550,000,000	202	1,750,000,000	49.3	134
大正十八年	3,650,000,000	208	1,800,000,000	49.3	136
大正十九年	3,750,000,000	214	1,850,000,000	49.3	138
大正二十年	3,850,000,000	220	1,900,000,000	49.4	140

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭
和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和
元	元	元	元	元	元	元	元	元	元	元	元	元	元	元	元
二	十	十	十	十	十	九	八	七	六	五	四	三			
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年			
1917	1914	1913	1912	1911	1910	1909	1908	1907	1906	1905	1904	1903			
公	公	公	公	公	公	公	公	公	公	公	公	公	公	公	公
55,000	55,000	55,000	55,000	55,000	55,000	55,000	55,000	55,000	55,000	55,000	55,000	55,000	55,000	55,000	55,000
112	112	112	112	112	112	112	112	112	112	112	112	112	112	112	112
10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
11,100	11,100	11,100	11,100	11,100	11,100	11,100	11,100	11,100	11,100	11,100	11,100	11,100	11,100	11,100	11,100
11,100	11,100	11,100	11,100	11,100	11,100	11,100	11,100	11,100	11,100	11,100	11,100	11,100	11,100	11,100	11,100
5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000

(1) 和元二

は移入超過なり。

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大
正	正	正	正	正	正	正	正	正	正	正	正	正	正	正	正
元	元	元	元	元	元	元	元	元	元	元	元	元	元	元	元
二	十	十	十	十	十	九	八	七	六	五	四	三			
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年			
1917	1914	1913	1912	1911	1910	1909	1908	1907	1906	1905	1904	1903			
公	公	公	公	公	公	公	公	公	公	公	公	公	公	公	公
55,000	55,000	55,000	55,000	55,000	55,000	55,000	55,000	55,000	55,000	55,000	55,000	55,000	55,000	55,000	55,000
112	112	112	112	112	112	112	112	112	112	112	112	112	112	112	112
10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
11,100	11,100	11,100	11,100	11,100	11,100	11,100	11,100	11,100	11,100	11,100	11,100	11,100	11,100	11,100	11,100
11,100	11,100	11,100	11,100	11,100	11,100	11,100	11,100	11,100	11,100	11,100	11,100	11,100	11,100	11,100	11,100
5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000

(1) 和元二

は輸出超過なり。

内地貿易

指数

移出

移入

移出超過

三四 對手國別外國貿易

臺灣の外國貿易は、大體に於て輸入超過を示す。而して對手國中支那は、累年主要の地位に在り。即ち輸出貿易總額に對する其の割合は、少くも二割九分多きは六割を占め、輸入貿易に於ては少くも三割四分、多きは五割七分を占む。

今昭和二年の外國貿易に就て觀るに、貿易總額一億一千萬圓、内輸出額は四千五百萬圓にして、就中支那の二千五百萬圓最も多く、總額の五割六分に當り、香港の六百萬圓、北米合衆國の五百六十萬圓、關領印度の三百八十萬圓等順次に亞く。輸入額六千六百萬圓中第一位を占むるは支那の二千三百萬圓にして、總額の三割五分に當り、英領印度の一千五百萬圓、獨逸の六百八十萬圓、關東州の四百五十萬圓、英吉利の三百萬圓等順次に亞く。

一 輸 出

總額	昭和二年	同元年	大正十四年	同十三年	同十二年	同十一年	同元年
總額	1,100,000,000	1,100,000,000	1,100,000,000	1,100,000,000	1,100,000,000	1,100,000,000	1,100,000,000
關東州	450,000,000	450,000,000	450,000,000	450,000,000	450,000,000	450,000,000	450,000,000
支那	2,500,000,000	2,500,000,000	2,500,000,000	2,500,000,000	2,500,000,000	2,500,000,000	2,500,000,000
香港	600,000,000	600,000,000	600,000,000	600,000,000	600,000,000	600,000,000	600,000,000
關領印度	380,000,000	380,000,000	380,000,000	380,000,000	380,000,000	380,000,000	380,000,000
獨逸	680,000,000	680,000,000	680,000,000	680,000,000	680,000,000	680,000,000	680,000,000
英領印度	1,500,000,000	1,500,000,000	1,500,000,000	1,500,000,000	1,500,000,000	1,500,000,000	1,500,000,000
北米合衆國	560,000,000	560,000,000	560,000,000	560,000,000	560,000,000	560,000,000	560,000,000
英吉利	300,000,000	300,000,000	300,000,000	300,000,000	300,000,000	300,000,000	300,000,000
佛蘭西	200,000,000	200,000,000	200,000,000	200,000,000	200,000,000	200,000,000	200,000,000
比律賓	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000
佛蘭西諸島	50,000,000	50,000,000	50,000,000	50,000,000	50,000,000	50,000,000	50,000,000
英領印度諸島	50,000,000	50,000,000	50,000,000	50,000,000	50,000,000	50,000,000	50,000,000
其他	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000

總額	昭和二年	同元年	大正十四年	同十三年	同十二年	同十一年	同元年
總額	1,100,000,000	1,100,000,000	1,100,000,000	1,100,000,000	1,100,000,000	1,100,000,000	1,100,000,000
關東州	450,000,000	450,000,000	450,000,000	450,000,000	450,000,000	450,000,000	450,000,000
支那	2,500,000,000	2,500,000,000	2,500,000,000	2,500,000,000	2,500,000,000	2,500,000,000	2,500,000,000
香港	600,000,000	600,000,000	600,000,000	600,000,000	600,000,000	600,000,000	600,000,000
關領印度	380,000,000	380,000,000	380,000,000	380,000,000	380,000,000	380,000,000	380,000,000
獨逸	680,000,000	680,000,000	680,000,000	680,000,000	680,000,000	680,000,000	680,000,000
英領印度	1,500,000,000	1,500,000,000	1,500,000,000	1,500,000,000	1,500,000,000	1,500,000,000	1,500,000,000
北米合衆國	560,000,000	560,000,000	560,000,000	560,000,000	560,000,000	560,000,000	560,000,000
英吉利	300,000,000	300,000,000	300,000,000	300,000,000	300,000,000	300,000,000	300,000,000
佛蘭西	200,000,000	200,000,000	200,000,000	200,000,000	200,000,000	200,000,000	200,000,000
比律賓	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000
佛蘭西諸島	50,000,000	50,000,000	50,000,000	50,000,000	50,000,000	50,000,000	50,000,000
英領印度諸島	50,000,000	50,000,000	50,000,000	50,000,000	50,000,000	50,000,000	50,000,000
其他	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000

濠太刺利	八五	五〇	一七	一八	一四	一〇	一〇
波刺利	四一	三二	一四	一三	一〇	一〇	一〇
獨逸	六八	一七	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
英吉	五〇	一七	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
北米合衆國	二〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
英領アメリカ	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
其他	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇

三五 支那、香港及南洋貿易

臺灣の外國貿易中臺灣と最も密接の關係を有する支那、香港及南洋との貿易を再檢するに、年に依り多少の相異あるも、大體に於て常に重要な地位を占む。即ち昭和二年に就て觀るに、輸出額は三千六百萬圓にして、輸出貿易總額の約八割一分を占め、輸入貿易は四千六百萬圓にして、輸入貿易總額の六割九分に當れり。

一 輸 出

總額	昭和二年	同元年	大正四年	同十三年	同十二年	同十一年	同元年
支那	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇
香港	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
南洋	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇

本表の南洋とは英領海峽植民地、英領ホルネオ、蘭領印度、比律賓、英領印度、佛領印度支那、暹羅及濠太刺利を謂ふ。以下同し。

二 輸 入

總額	昭和二年	同元年	大正四年	同十三年	同十二年	同十一年	同元年
支那	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇
香港	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
南洋	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇

支那、香港、南洋貿易總額  
に對する百分  
比

大正十年	十一年	十二年	十三年	十四年	昭和元年	同
輸出	輸出	輸出	輸出	輸出	輸出	輸出
10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000
498	555	577	644	701	788	865
144	159	170	181	190	201	212
272	326	337	363	384	417	447

外國貿易總額  
に對する割合

大正十年	十一年	十二年	十三年	十四年	昭和元年	同
輸出	輸出	輸出	輸出	輸出	輸出	輸出
797	844	891	938	985	1032	1079
214	230	246	262	278	294	310
583	614	645	676	707	738	769

香港、南洋、支那、總額  
三比

總額	支那	香港	南洋
100	73	67	29

三六 重要品別外國貿易

臺灣の外國貿易中輸出品の主要なるものは、茶、石炭、砂糖、樟腦、酒精等なり。今昭和二年に就て之を觀るに、茶は一千百六十萬圓を以て第一位を占め、石炭の六百萬圓、砂糖の二百六十萬圓、錫の二百萬圓、樟腦及酒精の各百九十萬圓等順次之に亞く。

次に輸入品の主要なるものは、豆油類、砂糖、米、杉材、硫酸アンモニウム、カンニール、石油、大豆等にして、昭和二年には米の千五百萬圓第一位を占め、豆油類の千二百萬圓、硫酸アンモニウムの八百七十萬圓、砂糖の三百六十萬圓、大豆及杉材の各二百六十萬圓、カンニール錫の二百四十萬圓、石油の百四十萬圓等順次之に亞く。

一輸 出

品名	昭和二年	同元年	大正四年	同十三年	同十二年	同十一年	同元年
茶	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
石炭	6,000,000	6,000,000	6,000,000	6,000,000	6,000,000	6,000,000	6,000,000
砂糖	2,600,000	2,600,000	2,600,000	2,600,000	2,600,000	2,600,000	2,600,000
樟腦	2,000,000	2,000,000	2,000,000	2,000,000	2,000,000	2,000,000	2,000,000
酒精	1,900,000	1,900,000	1,900,000	1,900,000	1,900,000	1,900,000	1,900,000
錫	2,000,000	2,000,000	2,000,000	2,000,000	2,000,000	2,000,000	2,000,000
豆油類	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000
米	1,500,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000
杉材	800,000	800,000	800,000	800,000	800,000	800,000	800,000
硫酸アンモニウム	870,000	870,000	870,000	870,000	870,000	870,000	870,000
カンニール	240,000	240,000	240,000	240,000	240,000	240,000	240,000
石油	400,000	400,000	400,000	400,000	400,000	400,000	400,000
大豆	260,000	260,000	260,000	260,000	260,000	260,000	260,000
杉材	260,000	260,000	260,000	260,000	260,000	260,000	260,000

二輸 入

品名	昭和二年	同元年	大正四年	同十三年	同十二年	同十一年	同元年
豆油類	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000
米	1,500,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000
杉材	800,000	800,000	800,000	800,000	800,000	800,000	800,000
硫酸アンモニウム	870,000	870,000	870,000	870,000	870,000	870,000	870,000
カンニール	240,000	240,000	240,000	240,000	240,000	240,000	240,000
石油	400,000	400,000	400,000	400,000	400,000	400,000	400,000
大豆	260,000	260,000	260,000	260,000	260,000	260,000	260,000
杉材	260,000	260,000	260,000	260,000	260,000	260,000	260,000
樟腦	2,000,000	2,000,000	2,000,000	2,000,000	2,000,000	2,000,000	2,000,000
酒精	1,900,000	1,900,000	1,900,000	1,900,000	1,900,000	1,900,000	1,900,000
錫	2,000,000	2,000,000	2,000,000	2,000,000	2,000,000	2,000,000	2,000,000
茶	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
石炭	6,000,000	6,000,000	6,000,000	6,000,000	6,000,000	6,000,000	6,000,000
砂糖	2,600,000	2,600,000	2,600,000	2,600,000	2,600,000	2,600,000	2,600,000
樟腦	2,000,000	2,000,000	2,000,000	2,000,000	2,000,000	2,000,000	2,000,000
酒精	1,900,000	1,900,000	1,900,000	1,900,000	1,900,000	1,900,000	1,900,000
錫	2,000,000	2,000,000	2,000,000	2,000,000	2,000,000	2,000,000	2,000,000
豆油類	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000
米	1,500,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000
杉材	800,000	800,000	800,000	800,000	800,000	800,000	800,000
硫酸アンモニウム	870,000	870,000	870,000	870,000	870,000	870,000	870,000
カンニール	240,000	240,000	240,000	240,000	240,000	240,000	240,000
石油	400,000	400,000	400,000	400,000	400,000	400,000	400,000
大豆	260,000	260,000	260,000	260,000	260,000	260,000	260,000
杉材	260,000	260,000	260,000	260,000	260,000	260,000	260,000



三七 重要品別内地貿易

臺灣の内地貿易中移出品の主要なるものは、砂糖、米、芭蕉實、樟腦及樟腦油、鳳梨糖時、樟材、酒精、糖類等なり。今昭和二年に就て之を顧るに、砂糖は九千六百萬圓を以て第一位を占め、米の六千八百萬圓、芭蕉實の八百六十萬圓、酒精の三百六十萬圓、鳳梨糖時、樟腦及樟腦油の各三百萬圓、樟材及樟材の二百四十萬圓、切乾薯の二百萬圓、糖類の百六十萬圓等順次に並ぶ。

次に移入品の主要なるものは、綿織及絹織布、肥料、鐵、酒類、鹽、杉材、紙、小麥粉等にして、昭和二年には綿織及絹織布の千五百萬圓第一位を占め、鐵の六百萬圓、紙及小麥粉の各三百萬圓、杉材及樟材の二百五十萬圓、麥酒の二百四十萬圓、鹽の二百二十萬圓、紙巻煙草及錫の各二百萬圓等順次に並ぶ。

移出

品名	昭和二年	同元年	大正四年	同十三年	同十二年	同十一年	同元年
砂糖	九,600,000	九,600,000	九,600,000	九,600,000	九,600,000	九,600,000	九,600,000
米	六,800,000	六,800,000	六,800,000	六,800,000	六,800,000	六,800,000	六,800,000
芭蕉實	860,000	860,000	860,000	860,000	860,000	860,000	860,000
樟腦及樟腦油	3,000,000	3,000,000	3,000,000	3,000,000	3,000,000	3,000,000	3,000,000
鳳梨糖時	3,600,000	3,600,000	3,600,000	3,600,000	3,600,000	3,600,000	3,600,000
酒精	3,600,000	3,600,000	3,600,000	3,600,000	3,600,000	3,600,000	3,600,000
糖類	1,600,000	1,600,000	1,600,000	1,600,000	1,600,000	1,600,000	1,600,000
樟材及樟材	2,400,000	2,400,000	2,400,000	2,400,000	2,400,000	2,400,000	2,400,000
切乾薯	2,000,000	2,000,000	2,000,000	2,000,000	2,000,000	2,000,000	2,000,000

檜材及檜板	二四六	二六八	二五八	二五九	二五九
横造バスマ帽	一六八	一六八	一六八	一六八	一六八
食鹽	一五三	一五三	一五三	一五三	一五三
石炭	一八八	一八八	一八八	一八八	一八八
鳳梨罐詰	一五三	一五三	一五三	一五三	一五三
二移入					
昭和二年	二四六	二六八	二五八	二五九	二五九
同元年	二四六	二六八	二五八	二五九	二五九
大正四年	二四六	二六八	二五八	二五九	二五九
同十三年	二四六	二六八	二五八	二五九	二五九
同十二年	二四六	二六八	二五八	二五九	二五九
同十一年	二四六	二六八	二五八	二五九	二五九
同九年	二四六	二六八	二五八	二五九	二五九
精織及絹織布	二四六	二六八	二五八	二五九	二五九
織	二四六	二六八	二五八	二五九	二五九
清酒	二四六	二六八	二五八	二五九	二五九
麥酒	二四六	二六八	二五八	二五九	二五九
過磷酸肥料	二四六	二六八	二五八	二五九	二五九
硫酸アンモニア	二四六	二六八	二五八	二五九	二五九
硝子	二四六	二六八	二五八	二五九	二五九
乾鰯	二四六	二六八	二五八	二五九	二五九

杉材及杉板	二四六	二六八	二五八	二五九	二五九
紙巻煙草	二四六	二六八	二五八	二五九	二五九
調合肥料	二四六	二六八	二五八	二五九	二五九
ガゼー薬及	二四六	二六八	二五八	二五九	二五九
黄麻	二四六	二六八	二五八	二五九	二五九
紙	二四六	二六八	二五八	二五九	二五九
米	二四六	二六八	二五八	二五九	二五九
小麥	二四六	二六八	二五八	二五九	二五九
綿糸	二四六	二六八	二五八	二五九	二五九
毛織物	二四六	二六八	二五八	二五九	二五九
メリヤス肌衣(各種)	二四六	二六八	二五八	二五九	二五九
砂	二四六	二六八	二五八	二五九	二五九
麥	二四六	二六八	二五八	二五九	二五九

三八 港別貿易

昭和二年に於ける露海の輸移出入貿易総額四億三千萬圓を港別に觀れば、基隆の二億五千萬圓第一位を占め、總額の五割八分に當り、高雄の一億六千萬圓之に亞て三割七分を占め、安平の一億三千萬圓、淡水の四百萬圓を始め殘餘の諸港は之を合算するも尙僅かに總額の五分を占むるに過ぎず。

今之を内地其他の諸港と比較するに、基隆は神戸、横濱、大阪、大連に亞て第五位を占めて大連と釜山との中間に、高雄は第七位を占めて釜山と仁川との中間に在り。更に安平は三池と武豐との中間に、淡水は博多の次に位す。

名	總額		輸出		輸入	
	千圓	千圓	千圓	千圓	千圓	千圓
神戶	1,321,000	1,321,000	900,000	421,000	420,000	5,000
横濱	1,230,000	1,230,000	800,000	430,000	430,000	0
大阪	680,000	680,000	500,000	180,000	0	0
大連	501,000	501,000	500,000	1,000	0	0
釜山	1,600,000	1,600,000	1,500,000	100,000	0	0
高雄	1,600,000	1,600,000	1,500,000	100,000	0	0
基隆	1,600,000	1,600,000	1,500,000	100,000	0	0
仁川	1,300,000	1,300,000	1,200,000	100,000	0	0
古	1,300,000	1,300,000	1,200,000	100,000	0	0
川	1,300,000	1,300,000	1,200,000	100,000	0	0
雄	1,300,000	1,300,000	1,200,000	100,000	0	0
山	1,300,000	1,300,000	1,200,000	100,000	0	0
隆	1,300,000	1,300,000	1,200,000	100,000	0	0
連	1,300,000	1,300,000	1,200,000	100,000	0	0
山	1,300,000	1,300,000	1,200,000	100,000	0	0
川	1,300,000	1,300,000	1,200,000	100,000	0	0
名	1,300,000	1,300,000	1,200,000	100,000	0	0

名	總額		輸出		輸入	
	千圓	千圓	千圓	千圓	千圓	千圓
三門	1,200,000	1,200,000	1,100,000	100,000	0	0
安池	1,200,000	1,200,000	1,100,000	100,000	0	0
武豐	1,200,000	1,200,000	1,100,000	100,000	0	0
博多	1,200,000	1,200,000	1,100,000	100,000	0	0
淡	1,200,000	1,200,000	1,100,000	100,000	0	0
水	1,200,000	1,200,000	1,100,000	100,000	0	0
名	1,200,000	1,200,000	1,100,000	100,000	0	0
仁	1,200,000	1,200,000	1,100,000	100,000	0	0
池	1,200,000	1,200,000	1,100,000	100,000	0	0
司	1,200,000	1,200,000	1,100,000	100,000	0	0
名	1,200,000	1,200,000	1,100,000	100,000	0	0

臺灣及朝鮮の輸出中には移出を、輸入中には移入を含む。朝鮮、關東州は同統計書に依る。北海道、内地府縣は帝國統計年鑑に依る。

三九 財政

臺灣總督府特別會計が全く國庫の補助を受けずして、獨立の實を舉ぐるに至りしは、明治三十八年度なりき。而して同年度の歳入は僅かに二千五百萬圓に過ぎざりしか、爾來年々共に其の額を増大し、大正八年度には一億圓を突破し、大正九年度には一億二千九百萬圓に増額せしか、大正十年度よりは少く減退を示したり。然るに昭和元年度には一億三千萬圓に増額し、同二年度には更に一億三千八百萬圓に達せり。次に歳入中其の主要部分を占むるは、官業及官有財産收入にして、其の歳入總額に對する割合は、年に依り多少の高低あるも少きは三割九分、多きは五割八分を占む。歳出は明治三十八年度の二千萬圓より、大正八年度の七千二百萬圓に増加し、更に大正十一年度には九千六百萬圓に増額せり。大正十二年度以降は八千萬圓に減退したりしも昭和元年度には再び九千萬圓に増額し、同二年度には一億圓に達せり。

年度	總額		歳入		歳出	
	千圓	千圓	千圓	千圓	千圓	千圓
明治三十八年度	20,000,000	20,000,000	2,000,000	18,000,000	2,000,000	18,000,000
大正元年度	100,000,000	100,000,000	30,000,000	70,000,000	100,000,000	100,000,000
同六年度	190,000,000	190,000,000	60,000,000	130,000,000	190,000,000	190,000,000
同七年度	200,000,000	200,000,000	60,000,000	140,000,000	200,000,000	200,000,000

歳入百分比例

官業及官有財産收入 其他

官業及官有財産收入 其他

歳出 指數

年度	總額	官業及官有財産收入	其他	官業及官有財産收入	其他
八年度	100,000,000	30,000,000	70,000,000	30,000,000	70,000,000
九年度	110,000,000	35,000,000	75,000,000	35,000,000	75,000,000
十年度	117,000,000	38,000,000	79,000,000	38,000,000	79,000,000
十一年度	122,000,000	40,000,000	82,000,000	40,000,000	82,000,000
十二年度	128,000,000	42,000,000	86,000,000	42,000,000	86,000,000
十三年度	135,000,000	45,000,000	90,000,000	45,000,000	90,000,000
十四年度	142,000,000	48,000,000	94,000,000	48,000,000	94,000,000
昭和元年度	150,000,000	50,000,000	100,000,000	50,000,000	100,000,000
同二年度	158,000,000	52,000,000	106,000,000	52,000,000	106,000,000
同三年度	165,000,000	55,000,000	110,000,000	55,000,000	110,000,000

本表中大正十四年度迄は決算、昭和元年度及同二年度は現計、昭和三年度は豫算なり。

四〇專賣

臺灣の專賣は現在阿片、食鹽、樟腦、煙草及酒の五種なるが、就中酒は大正十一年七月以降の實施す。今最近十六年間に於ける實渡價額を觀るに、大正元年度は千七百萬圓なりしものか、大正六年度には二千萬圓を越ゆるに至り、更に大正九年度には三千萬圓を突破したるも、大正十年度には經濟界の世界的不況に伴ひ、樟腦の如きは特に前年度の一千萬圓より五百萬圓に減退したる爲め、總額も二千五百萬圓に低下したりしか、大正十一年度には稍や景況を回復したるを、酒專賣實施の結果總額三千四百萬圓に達し、大正十二年度には四千萬圓を突破し、大正十四年度には四千五百萬圓に増加せり。

最近入造樟腦の備用旺盛となり是が對策上樟腦に關する事項は一般に公表せざる爲め、昭和元年度及同二年度の實渡總價額には樟腦に關するものを控除せざる爲め大正十四年度に比し著しく減額せるも、各種類別に之を觀れば阿片煙膏を除く外は概ね増收の趨勢に在り。

大正元年度  
同 二年度  
同 三年度  
同 四年度  
同 五年度  
同 六年度

實渡總價額	一七〇、六六一
阿片煙膏	六〇、七〇六
食鹽	七、九三三
樟腦	八〇、九三三
煙草	八、〇〇〇
酒	八、〇〇〇
其他	六、〇〇〇
合計	一七〇、六六一

大正元年度  
同 二年度  
同 三年度  
同 四年度  
同 五年度  
同 六年度  
同 七年度  
同 八年度  
同 九年度  
同 十年度  
同 十一年度  
同 十二年度  
同 十三年度  
同 十四年度  
昭和元年度

實渡總價額	一七〇、六六一
阿片煙膏	六〇、七〇六
食鹽	七、九三三
樟腦	八〇、九三三
煙草	八、〇〇〇
酒	八、〇〇〇
其他	六、〇〇〇
合計	一七〇、六六一

同九年度	二八〇、〇〇〇	三、四七〇、〇〇〇	—	—	—
同十年度	五七五、〇〇〇	一、二八八、〇〇〇	—	—	—
同十一年度	九一五、〇〇〇	一、〇七四、〇〇〇	六、五四〇、〇〇〇	—	—
同十二年度	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇七五、〇〇〇	八、一〇〇、〇〇〇	—	—
同十三年度	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇七五、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	—	—
同十四年度	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇七五、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	—	—
昭和元年度	—	—	—	—	—
同二年度	—	—	—	—	—

樟腦及樟腦油には副産物を含む。

四一 銀行

臺灣に於ける銀行は、昭和二年十二月末現在に依れば行數七（内日本勸業銀行及三十四銀行は支店）にして、島内に於ける支店及出張所數合計四十六、資本金七千三百萬圓、（拂込金六千二百萬圓）、準備金五十七萬圓、純益金三百萬圓、島内預り金一億一千萬圓、同貸出金二億四千萬圓なり。

支店	公稱		準備金	純益金	年末現在	
	資本金	準備金			島内預り金	島内貸出金
總行	—	—	—	—	—	—
日本勸業銀行	五、〇〇〇	—	—	—	—	—
華南銀行	五、〇〇〇	—	—	—	—	—
臺灣南工銀行	一〇、〇〇〇	—	—	—	—	—
彰化銀行	四、〇〇〇	—	—	—	—	—
臺灣貯蓄銀行	一、〇〇〇	—	—	—	—	—
三十四銀行	—	—	—	—	—	—
臺灣支店	—	—	—	—	—	—

日本勸業銀行支店及三十四銀行支店の資本金は本島各支店に於ける元金を掲ぐ、但し勸業銀行支店元金は毎月末本店勘定の平均額なり。

四二物價

臺灣の物價は世界大戰の影響を受くること比較的少かりしも、戦局の進展に伴ひ、大正七年頃より著しき昂騰を示し、大正九年にはその絶頂に達したりしか、翌大正十年以降は稍や低落の趨勢に在りたるも、最近に至り少しく高率を示せり。即ち主要なる日常生活必需品の臺北市に於ける物價の最近十六箇年の指數はよくその趨勢を示せり。

同	同	同	同	同	同	同	同	同	大
十	九	八	七	六	五	四	三	二	元
一	年	年	年	年	年	年	年	年	年
米	米	米	米	米	米	米	米	米	米
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
甘	甘	甘	甘	甘	甘	甘	甘	甘	甘
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
米	米	米	米	米	米	米	米	米	米
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
糖	糖	糖	糖	糖	糖	糖	糖	糖	糖
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
油	油	油	油	油	油	油	油	油	油
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
肉	肉	肉	肉	肉	肉	肉	肉	肉	肉
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
豚	豚	豚	豚	豚	豚	豚	豚	豚	豚
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
木	木	木	木	木	木	木	木	木	木
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
炭	炭	炭	炭	炭	炭	炭	炭	炭	炭
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
薪	薪	薪	薪	薪	薪	薪	薪	薪	薪
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇





校種	校数	教員数	児童数	一校平均児童数	教員一人に付児童数	人口千に付児童数
高等商業学校	1	1	10	10	10	10
高等學校	1	1	10	10	10	10
師範學校	10	10	10	10	10	10
中學校	10	10	10	10	10	10
高等女學校	10	10	10	10	10	10
農林學校	10	10	10	10	10	10
工業學校	10	10	10	10	10	10
商業學校	10	10	10	10	10	10
實業補習學校	10	10	10	10	10	10
小學校	10	10	10	10	10	10
公立小學校	10	10	10	10	10	10
私立各種學校	10	10	10	10	10	10
附屬	10	10	10	10	10	10

學校(小、公學校(分教場を含む))は年度末現在、教員、生徒(児童)は三月一日現在  
なり。教員には兼務者を含む。

二 内地其の他の初等教育比較

校種	校数	教員数	児童数	一校平均児童数	教員一人に付児童数	人口千に付児童数
小學校	10	10	10	10	10	10
張灣	10	10	10	10	10	10
朝鮮	10	10	10	10	10	10
樺太	10	10	10	10	10	10
關東	10	10	10	10	10	10
北海道	10	10	10	10	10	10
内地府縣	10	10	10	10	10	10
公學校	10	10	10	10	10	10
關東州	10	10	10	10	10	10
樺太	10	10	10	10	10	10
朝鮮	10	10	10	10	10	10
張灣	10	10	10	10	10	10

公學校の朝鮮は官公私立普通學校、樺太は土人教育所、關東州(州内)は官立公學校及公立普通學校の事實なり。  
人口千に付児童算出の基數は、小學校に在りては内地人のみを、公學校に在りては各其の本土人のみを以て算出す。

臺灣の児童は昭和三年三月一日現在なり。  
 朝鮮は昭和二年度末(児童は昭和三年三月一日現在にして同府統計書に依る。  
 樺太は昭和二年度末現在にして同府統計書に依る。  
 關東州(州内、鐵道附屬地、領事館)は昭和二年末現在にして同府統計書に依る。  
 北海道、内地府縣は大正十四年度末(児童は大正十五年三月一日)現在にして帝國統計年鑑に依る。

四四 衛生機關

臺灣には昭和二年末現在、官立十三、公立十六、私立八十、計百九の醫院さ、一千百名の醫師さ、四百五十名の醫生さ、一千七十名の産婆を有す。醫師、醫生一人に對する人口は全島平均二千七百十人にして、その割合の最も少きは臺東廳の二千二百二十八、最も多きは澎湖廳の六千九百四十人なり。

總數	院			醫師及醫生		産婆	一人口に對する
	官立	公立	私立	醫師	醫生		
總數	13	16	80	123	450	170	2,710
澎湖廳	1	1	8	9	9	3	6,940
花蓮廳	1	1	6	6	6	4	3,330
臺東廳	1	1	6	6	6	4	3,330
高雄州	2	4	19	24	24	6	2,917
臺南州	2	4	19	24	24	6	2,917
新竹州	1	2	7	7	7	5	2,000
新竹州	1	2	7	7	7	5	2,000
臺北州	4	6	26	36	36	10	1,556

醫生は明治三十四年府令第四十七號臺灣醫生免許規則に依り免許を得て其の管轄内に於て醫師を業と爲す者さす。

本表の外藥劑師百五名、齒科醫師百十七名を有す。

四五 水道

臺灣に於ける既設水道(簡易水道を含む)の總數はバロン、恒春、馬太鞍、カムテン等の給水戸數及消費水量不明のものを除き、昭和二年末に五十九箇所、年末現在給水戸數は專用給戸數二萬九千八百七十戸、共用給戸數二萬七千八百戸にして其の消費水量は消費水量不明の三十四水道を除き(臺東、花蓮港兩縣下に於ける水道の大多數は簡易水道にして其の消費水量は不明なり)計量供給千六百二十八萬立方米、放任供給千四百四十九萬立方米なり。

年末現在

年中消費水量(立方米)

水道數	專用給		共用給		總數	計量供給	放任供給
	戸數	數	戸數	數			
總數	九	三九、六一	二七、八一	二七、八一	六六、九二	一、三二〇、〇〇〇	一、四四七、〇〇〇
臺北州	九	一、四五五	一、五七六	一、五七六	三、一三一	一、一〇一、〇〇〇	一、四一七、〇〇〇
新竹州	二	〇	二五八	二五八	二五八	八〇〇	一〇三、〇〇〇
臺中州	九	四、九八	二、七〇七	二、七〇七	七、六八五	一、一八六、〇〇〇	一、四〇〇、〇〇〇
臺南州	五	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	二、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
高雄州	四	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	二、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
臺東廳	三	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	三、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
花蓮港廳	六	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	三、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇

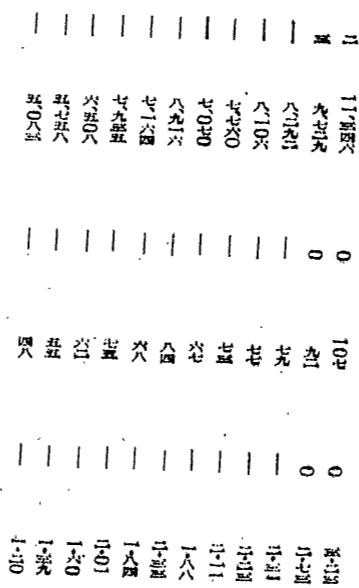
花蓮港の年中消費水量は花蓮港水道のみの事實なり。  
本表の外パロン(新竹)恒春(高雄)馬太鞍(花蓮港)カムテン(臺東)等の水道あるし戸  
敷及消費水量等不明なり。

### 四六 ペストとマラリア

臺灣は一般に不健康地の如く解せらるるも、衛生設備の完成と共に、近年其の面目を一  
新し、ペストの如き大正七年以來全く之れが發生を見ず。又マラリアの如きも其の死亡數  
は年に依りて増減ありと雖、一般に減退の傾向を示し、明治三十九年に於て人口千に付死  
亡數三人二分なりしものが、昭和二年には一人二分に減退し、其の實數に於ても同年間に  
五割二分を減したり。

年	死亡實數			指 數			人口千に付死亡		
	ペスト	マラリア	合計	ペスト	マラリア	合計	ペスト	マラリア	合計
明治三十九年	105	105	210	100	100	200	0.51	0.51	1.02
同 四十年	105	105	210	100	100	200	0.51	0.51	1.02
同 四十一年	105	105	210	100	100	200	0.51	0.51	1.02
同 四十二年	105	105	210	100	100	200	0.51	0.51	1.02
同 四十三年	105	105	210	100	100	200	0.51	0.51	1.02
同 四十四年	105	105	210	100	100	200	0.51	0.51	1.02
大正元年	105	105	210	100	100	200	0.51	0.51	1.02
同 二年	105	105	210	100	100	200	0.51	0.51	1.02
同 三年	105	105	210	100	100	200	0.51	0.51	1.02
同 四年	105	105	210	100	100	200	0.51	0.51	1.02

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同  
 和 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十  
 二 元 四 三 二 一 九 八 七 六 五  
 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年



四七 阿片吸食特許者

廣瀨總督府は阿片問題に就ては、嚴禁主義を避けて漸禁の方針を執り、阿片吸食者に認むる者に限り其の吸食を特許し、漸次之を絶滅を期し、逐年豫期の目的の到達に近づきつゝあり。即ち之を最近十六年間に就て觀るに、阿片吸食特許者（本島人）の數は八萬七千人より二萬九千人に減少したり。

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同  
 火 正  
 正 元  
 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十  
 一 九 八 七 六 五 四 三 二 年  
 年 年 年 年 年 年 年 年 年 年

年	總數		指數	總數	
	男	女		男	女
二十一年	8,700	2,500	100	8,700	2,500
二十年	8,300	2,400	95	8,300	2,400
十九年	7,900	2,300	90	7,900	2,300
十八年	7,500	2,200	85	7,500	2,200
十七年	7,100	2,100	80	7,100	2,100
十六年	6,700	2,000	75	6,700	2,000
十五年	6,300	1,900	70	6,300	1,900
十四年	5,900	1,800	65	5,900	1,800
十三年	5,500	1,700	60	5,500	1,700
十二年	5,100	1,600	55	5,100	1,600
十一年	4,700	1,500	50	4,700	1,500

特許年齢以上の  
 本島人百に對する

同十二年	同十三年	同十四年	昭和二年
5,488	5,488	5,488	5,488
5,488	5,488	5,488	5,488
5,488	5,488	5,488	5,488
5,488	5,488	5,488	5,488
5,488	5,488	5,488	5,488
5,488	5,488	5,488	5,488
5,488	5,488	5,488	5,488

本表は各年十二月末日現在にして本島人のみの事實なり。

四八 鐵道

臺灣の鐵道は、昭和二年度末には官設鐵道（阿里山及羅東森林鐵道を含む）の營業哩數六百哩に達し、外に私設鐵道千三百哩を有す。私設鐵道は主として製糖會社の經營する所に今之を内地其の他と比較するに、百方に付鐵道營業哩の哩數は、關東州の三百十三哩最も多く、我臺灣の七十六哩之に亞き、樺太の十二哩最も少し。更に人口萬に付哩數は樺太の十二哩最も多く、朝鮮は一哩にして最も少く、臺灣は二哩を以て内地の上に在り。

營業線路延長

總數	官設	私設	百方に付	人口萬に付
600	200	400	1.5	1.5
600	200	400	1.5	1.5
600	200	400	1.5	1.5
600	200	400	1.5	1.5
600	200	400	1.5	1.5
600	200	400	1.5	1.5
600	200	400	1.5	1.5
600	200	400	1.5	1.5
600	200	400	1.5	1.5

關東、樺太、關東州は昭和二年度末現在にして同總統計書に依る。  
内地道府縣は昭和元年度末現在の營業線哩にして帝國統計年鑑に依る。

### 四九 郵便、電信、電話

臺灣に於ける郵便、電信、電話の現況を觀るに、昭和二年度に於て通常郵便は引受六千萬、配達七千三百萬、電信は發信百四十萬、著信百五十萬、爲替は振出二千九百萬圓、拂渡千六百萬圓、貯金は預入一千六百萬圓、拂戻一千二百萬圓、貯金現在一千二百萬圓、振替貯金口座受入九千三百萬圓、拂出九千三百萬圓、現在五十萬圓なり。又同年度末現在電話加入者數は一萬二千、年度中加入者數は五十五萬圓なり。

今之を内地其他と比較するに、人口に對する割合は通常郵便引受、電報發信、爲替振出及貯金預入を以て最多數を示すは樺太にして、其の最少數は朝鮮なり。又人口に對する割合の最も多きは樺太、最も少きは朝鮮にして、同加入者一に付通話度數の最も多きは關東州、最も少きは内地道府縣なり。

#### 一 郵便、電信、爲替、貯金及電話

通常郵便	配引	人口十に對する	2000
電信	發信	人口十に對する	1400
電信	著信	人口十に對する	1500
電信	爲替	人口十に對する	1200
電信	貯金	人口十に對する	1100
電信	電話	人口十に對する	1000

電 話	振 替 貯 金	貯 金	爲 替	
			振 入	振 出
加入者に 對する 付入者 に對する 度數	現座 口座 人員一 に對 する 在付 在出入	預入 現拂 日十に 對する 在戻入	振入 日十に 對する 出	振出 日十に 對する 渡出
五萬六千七百七十七	九三、七〇五、五五〇 五、八八、九二五、〇〇〇 五、六五、五七〇 一、一八、八〇〇	一、六五、九〇九、九〇〇 一、三三、八〇六、八〇〇 一、三三、八〇六、八〇〇 一、三三、八〇六、八〇〇	一、六五、九〇九、九〇〇 一、三三、八〇六、八〇〇	一、三三、八〇六、八〇〇 一、三三、八〇六、八〇〇

二 内地其の他との比較 (昭和二年度)

内 地	人口十に對する		電 話	
	振 入	振 出	加入者に 對する 付入者 に對する 度數	加入者に 對する 付入者 に對する 度數
朝鮮	一四、一三三	一、三三三	一、三三三	一、三三三
關東	一〇、五五七	一、〇五七	一、〇五七	一、〇五七
樺太	一、〇五七	一、〇五七	一、〇五七	一、〇五七
北地	一、〇五七	一、〇五七	一、〇五七	一、〇五七
内 地	一、〇五七	一、〇五七	一、〇五七	一、〇五七

朝鮮、樺太、關東州、北地、内地の電報發信は昭和元年度、爲替振出、貯金預入は大正十四年度、電報は昭和元年度の事實にして帝國統計年鑑に依る。



五〇 警察官署及職員

臺灣の地方警察機關數は昭和二年末現在に依れば、州警務部五、廳警務課三、警察署六、郡警察課四十五、支廳九、派出所及駐在所千五百三十にして、同職員の數は警視十五人、警部及警部補四百九十人、巡查六千九百人なり。

今之を内地其他と比較するに、一方里に對する巡查の數は、關東州の十人最も多く、臺灣は三人を以て之に亞き、巡查一人に付人口は北海道の千二百八十八人第一位を占め、朝鮮の千百十人、内地府縣の千九十九人、樺太の七百人、臺灣の六百三十人、關東州の四百四十人等順次に亞く。

内地府縣	警察分署	派出所及駐在所	職員		一方里に付人口
			警視	警部及警部補	
臺灣	6	153	15	450	326
關東州	5	153	5	1,000	113
樺太	3	1	2	3	700
朝鮮	3	1	2	1	44
北海道	1	1	1	1	2,288
關東州	1	1	1	1	1,247
北海道	1	1	1	1	1,247
内地府縣	1	1	1	1	1,000

本表は昭和二年末現在なり。

本表調査一人に付人口中臺灣の分は蕃地居住の蕃人を算入して算出す。  
 臺灣の警察署には郡役所警察課及支廳を含む。  
 關東州の民政支署は警察分署として掲出す。  
 朝鮮、樺太、關東州(州内)、鐵道附屬地、領事館は同編統計書に依る。  
 北海道、内地府縣は警察統計報告に依る。

五一 最近十六年間の進歩

人	内地				總
	人口	地	人	人	
大正元年	3,457,000	1,317,900	2,139,100	7,228,000	3,457,000
昭和二年	3,457,000	1,317,900	2,139,100	7,228,000	3,457,000
次年度の増減	132	132	132	132	132

人	耕				總
	地	地	地	地	
大正元年	1,317,900	1,317,900	1,317,900	1,317,900	1,317,900
昭和二年	1,317,900	1,317,900	1,317,900	1,317,900	1,317,900
次年度の増減	132	132	132	132	132

鐵	水	工	糖	製	實	財	亦	總
產	產	業	收	糖	易	政	出	額
四四六三六二圓	二七〇六八七圓	五二〇八九五圓	七五三三九甲	二四九九九七斤	二五五四四〇五圓	二五五四四〇五圓	二五五四四〇五圓	二五五四四〇五圓
三二〇三六七圓	一七六六六六圓	三三七一五三圓	九六九〇甲	九六六五四五斤	二四九二〇七二圓	二四九二〇七二圓	二四九二〇七二圓	二四九二〇七二圓
四七	九四	四二	一三	六八	四六	三三	五五	二二

阿片實渡價額	食鹽實渡價額	樟腦及樟腦油實渡價額	煙草實渡價額	酒實渡價額	教育	小學校兒童	公學校兒童	中等學校生徒	實業學校生徒	師範學校生徒	專門學校生徒	鐵道	官設鐵道線路延長	運輸(乘客貨金)	收入(貨物貨金)
六〇七八八八圓	七四九三三圓	五七九七〇七圓	四九三三八四圓	一四七六〇七〇圓	八六〇	四九五四	一〇〇七	五八	四六四	三二〇	三〇三哩	三三三六八圓	二五八八〇圓	二五八八〇圓	二五八八〇圓
四三三七七圓	三三三九四七圓	?	一四九五五五圓	一四七六〇七〇圓	三七一四	二九八二	九三九	二六八	一五五	五四	六八哩	八〇三三三圓	一〇七五二八圓	一〇七五二八圓	一〇七五二八圓
七	二六	?	三三	一	五〇	四四	四二	九	二七	三	八	三〇	三六	三六	三三









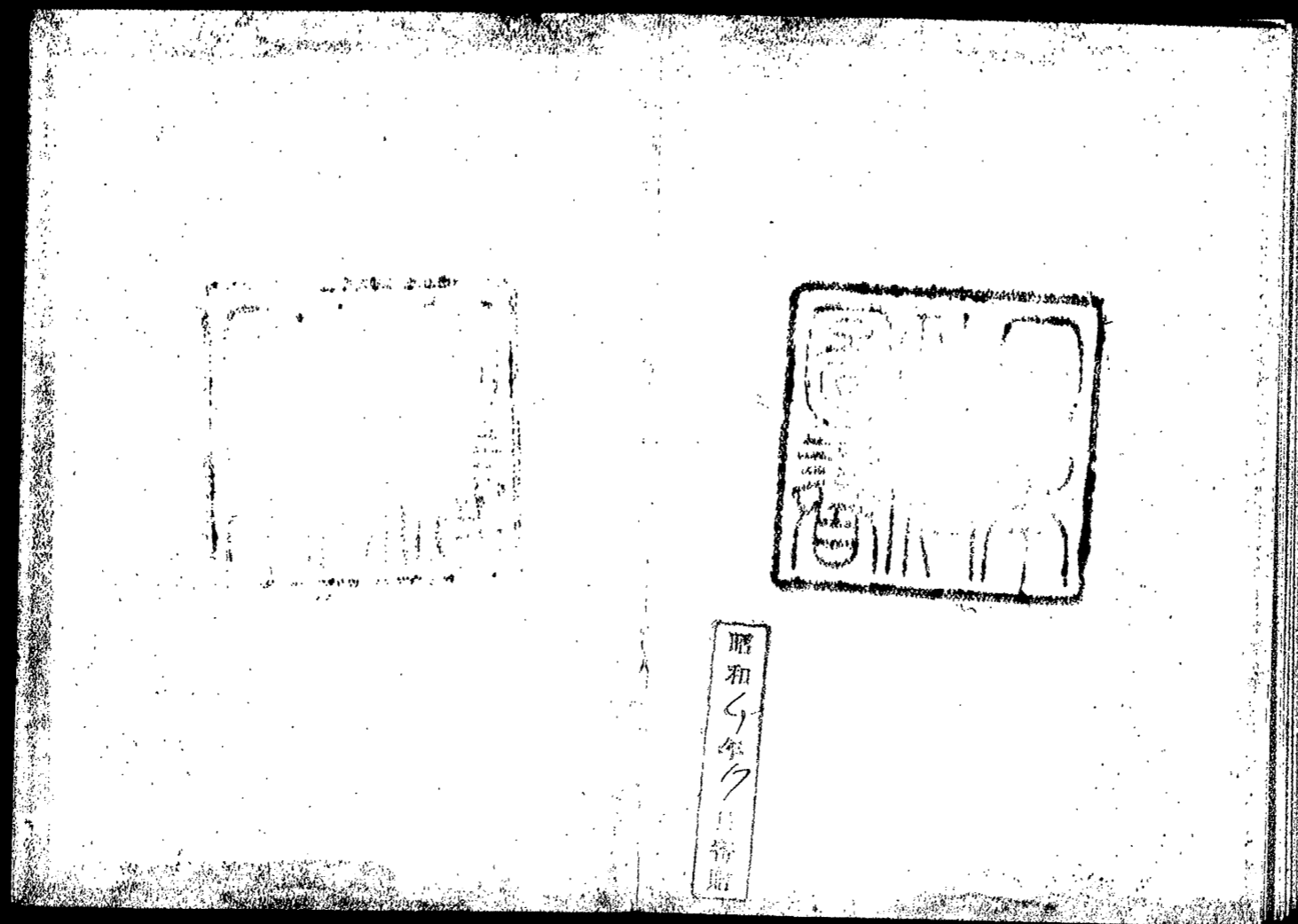
昭和四年七月八日印刷  
昭和四年七月十日發行

臺灣總督府

臺北大森町三丁目二番地  
印刷人 船橋 寛 一

臺北大森町三丁目二番地  
印刷所 臺北印刷株式會社





昭和  
九年  
三月  
十日